

○會計ノ部目次

- 内達
明治十八年四月十七日
會一丁
- 乾第二十号
明治十八年
會三丁
- 乾第百六十三号
明治十九年
全
- 乾第六十四号
明治二十一年
全
- 乾第六十二号
明治十九年
全

郡規類集

會計之部

●(明治十八年四月十七日)

本縣官吏貯金内規則第三條ニ據リ本郡吏員貯金取締方法其筋緯伺之末別紙ノ通り相定候條此旨内達候也

能美郡吏員貯金取締方法

本縣官吏貯金内規則ヲ遵守シ其取締方法ヲ設ル如左

第一條

貯金ハ毎月十七日ヲ以テ各自出金シ當應會計科ニ於テ取締メ預証ヲ發シ該金ハ人別ニ根節へ登錄スルモノトス

但該日以後ニ係ルモノハ其月末日ヲ以テ出金スヘシ

第二條

戸長及戸長役場筆生雇貯金ハ戸長ニ於テ取締メ内譯明細書ヲ製シ毎月二十日限り郡役所へ差出スモノトス

第三條

貯金毎月取纏メタル上國立銀行又ハ確實ナル金貸會社へ利付ヲ以テ預入シ其抵當トシテ正當ノ手續ヲ經テ公債證ヲ收受ケ毎六ヶ月ニ利金ヲ精算シ重利法ヲ以テ増殖ヲ謀ルモノトス

第四條

他方へ轉任或ハ免職死亡ノ節ハ其貯金ヲ返付ス最モ本郡内轉任ノ者へ返附モサルモノトス

第五條

貯金預リ主ヨリ左ノ約定証書ヲ收受ケ置クモノトス

定 約 書

能美郡吏員貯金御預入ニ付抵當トシテ(本行 本社)所有ノ公債證書ヲ差出可申万一故障出來還納能ハサル節ハ右證書御賣却ノ上元利共引去リ御決算可被下尤モ賣却方手續ニ於テ聊違背致問敷候依テ約定証書印件

石川縣何郡何町村番地 何行頭取
何社々長

明治十八年 月 日

郡 長 宛

何 ノ 謹 印

○ 第五十二号(明治十八年六月十日)

戸長以下旅費來十八年度ヨリ定額月割ヲ以テ送金候條毎期ノ支拂高別紙雛形ニ照準從場經費支拂詳細書ニ取添へ可届出此旨相違候事

○ 第五百六十三号(明治十九年九月三日)

官金負債者轉居以姓名代換等渾テ異動有之節ハ無遺可届出旨訓令相成リ候條此旨相違候事

○ 訓令第六十四号(明治二十一年三月二日)

人民ヨリ納金スル地方稅公儲金町村別ニ對シ從來納収セシメタル爲替手数料ノ義ハ明治廿一年度ヨリ差止候條此旨心得ヘシ

○ 第六十二号(明治十九年四月十日)

戸上筆生當行所ニ出頭之義取調之都合有之候ニ付受付掛ニ出頭簿ヲ備置キ候條出頭之都度何々御用ニテ何日出頭何日歸場候旨無遺該簿ニ登記訓印スヘシ臨時雇ニ於テモ同様可

相心得此旨相違候事

血能會等身違廢止

地方稅町村費ノ部目次

- 乾第百三號 明治十八年 全 地壹丁
- 乾第百十七號 全 全
- 訓示 明治十八年七月廿四日 全 全
- 乾第百二十一號 明治十八年 全 地三丁
- 乾第百二十二號 全 地四丁
- 乾第百三十號 全 地五丁
- 乾第百三十四號 全 地七丁
- 乾第百三十五號 明治十八年 地八丁
- 乾第百四十號 全 地十六丁
- 乾第百八十四號 全 全
- 內達 明治十八年十一月廿五日 全 全
- 內達 十二月十一日 全 地十七丁
- 訓示 十二月廿五日 全 全
- 訓示 明治十九年七月六日 全 地十八丁
- 訓令第三百八十四號 明治十九年 全 全

相心得此旨相違候事
但能會違号違廢止ス

○地方稅町村費ノ部目次

| | | | |
|------------|-------------|---|------|
| ●乾第百三號 | 明治十八年 | 全 | 地壹丁 |
| ●乾第百十七號 | 全 | 全 | 全 |
| ●訓示 | 明治十八年七月廿四日 | 全 | 全 |
| ●乾第百二十一號 | 明治十八年 | 全 | 地二丁 |
| ●乾第百二十二號 | 全 | 全 | 地四丁 |
| ●乾第百三十号 | 全 | 全 | 地五丁 |
| ●乾第百三十四號 | 全 | 全 | 地七丁 |
| ●乾第百三十五號 | 明治十八年 | 全 | 地八丁 |
| ●乾第百四十號 | 全 | 全 | 地十六丁 |
| ●乾第百八十四號 | 全 | 全 | 全 |
| ●内達 | 明治十八年十一月廿五日 | 全 | 全 |
| ●内達 | 全 | 全 | 地十七丁 |
| ●訓示 | 全 | 全 | 全 |
| ●訓示 | 明治十九年七月六日 | 全 | 地十八丁 |
| ●訓令第三百八十四號 | 明治十九年 | 全 | 全 |

| | | |
|------------|-------|------|
| ●訓令第十一號 | 明治二十年 | 地十九丁 |
| ●訓令第二十八號 | 全 | 地二十丁 |
| ●訓令第三百三十六號 | 全 | 地廿二丁 |
| ●訓令第三百二十三號 | 明治廿二年 | 地廿三丁 |
| ●訓令第二百十號 | 明治二十年 | 全 |
| ●訓令第二百九十九號 | 全 | 地廿五丁 |
| ●訓令第十號 | 明治廿一年 | 地廿六丁 |
| ●訓令第十三號 | 全 | 全 |
| ●內第十六號 | 明治廿一年 | 地廿三丁 |
| ●訓令第二十六號 | 全 | 全 |
| ●內第三十三號 | 全 | 全 |
| ●內第四十一號 | 全 | 地卅四丁 |
| ●訓令第四十七號 | 全 | 全 |
| ●內第五十五號 | 全 | 地卅五丁 |
| ●訓令第九十號 | 全 | 全 |
| ●訓令第一百七號 | 全 | 全 |
| ●訓令第七十九號 | 明治廿二年 | 地卅六丁 |

| | | |
|------------|-------|-------|
| ●訓令第一百一號 | 全 | 地四十三丁 |
| ●訓令第六十二號 | 全 | 全 |
| ●訓令第五十六號 | 全 | 地四十四丁 |
| ●訓令第三百三十八號 | 全 | 全 |
| ●乾第四十一號 | 明治十九年 | 地四十五丁 |
| ●乾第一百五十三號 | 全 | 地四十七丁 |
| ●乾第一百六十六號 | 全 | 地四十八丁 |

郡規類集

地方税、町村費之部

● 第五百三号(明治十八年五月十四日)

納期フル租税ハ必ス期限ヨリ五日間ヲ短縮シ戸長役場へ收入スヘシ此旨相達候事

● 第五百十七号(明治十八年六月六日)

諸税不納者財産公賣處分中反行ノ情ヲ以處分取消申出ル場合ニ於テハ該不納金相添へ出願スヘキ様取計フヘシ此旨相達候事

明治十七年第十五号布告ニ據リ區町村費不納處分ノ末官没ノ手續ヲナサズ郡區長又ハ戸長ニ於テ管掌ノ財産ニ係ル處分方法ハ其區町村會ニ於テ評決セシメタル上豫メ認可ヲ請フヘシ旨訓示相成候條此旨及訓示候也

能美郡長杉村寛正代理

石川縣能美郡書記富田鍊太郎

明治十八年七月廿四日

戸長

殿

● 乾二百廿一號(明治十八年十月廿一日)

△ 朱書

地二

明治十六年三月廿四日達中地稅納証式左ノ通更正シ賣藥營業稅納証ノ次ニ納期后上納ニ係
ル租稅仕譯書式ヲ追加ス

右相違候事

証 (小科目限リ各通ニ調製スヘシ)

一金何程

但明治何年度何租第何期又ハ前(后)

半期分

此譯

金何程

何町村分

金何程

何町村分

金何程

何町村分

右納候也

何郡區何町村何ヶ町村戸長

月 日

郡長宛

何ノ誰印

△ 納期后上納ニ係ル租稅ハ左ノ仕譯書ヲ添付スヘシ

明治何年度何租第何期又ハ前(后)半期分上納

人別仕譯書

(小科目限リ各通ニ調製スヘシ)

一金何程

何町村分

此譯

金何程

何ノ誰

金何程

何ノ誰

金何程

何ノ誰

一金何程

何町村分

此譯

金何程

何ノ誰

金何程

何ノ誰

地三

計金何程

右ノ通候也

月 日

何町村何ヶ村

戸長 役場印

●乾百廿二号(明治十八年六月十二日)

地方割中各役所ニ属スル諸親類豫算取調ノ義ニ付毎年四月一日現在反別可指出自縣達相成候依テ別紙例言ニ照準發表六月五日限り可届出本年ニ限り七月一日高ヲ以テ同月五日限届出ツヘシ此旨相達候事

但明治十二年黄五百二十九号反別戸数調同十三年能會廿四号達ハ消滅ト心得ヘシ
別紙

反別取調例言

一耕地トハ

田畑 未定 田畑宅地有稅社寺地ヲ算ス
類外

一荒地

前項生反別ヨリ變換地ノ分ヲ算ス

一鐵下年期開墾地

右ノ外鹽田温泉山林原野干物揚場池沼ノ類雜種反別ハ算入セサルモノトス

明治何年四月一日調反別表

△十八年ニ限リ七月一日高ヲ調フヘシ

| 町村名 | 耕地 | 荒地 | 開墾地 | 小計 |
|-----|------|------|------|------|
| 何町村 | 何町何反 | 何町何反 | 何町何反 | 何町何反 |
| 何町村 | 何町何反 | 何町何反 | 何町何反 | 何町何反 |
| 合計 | 何町何反 | 何町何反 | 何町何反 | 何町何反 |

右ノ通候也

町村戸長

何 誰印

●乾百三十号(明治十八年六月二十日)

地租收納景况報告表別紙書式ニ據リ取調毎納期后二十日以内ニ可差出此旨相達候事

(別紙)

但十七年度分ハ第三期ヨリ取調來ル七月十日迄ニ差出スヘシ

小科目限リ別紙ニ調製スヘシ

明治十八年度租何期収納状況報告表

賦課セシモノ何人

一反別何程

地價何程

地租何程

内

反別何程

納期迄ニ収納セシモノ何人

地價何程

地租何程

反別何程

公賣場前収納セシモノ何人

地價何程

地租何程

反別何程

公賣處分セシモノ何人

摘要

右ノ通候也

地價何程

地租何程

一此報告表ハ地租収納ノ實況ヲ徵スルカ爲メ必用ナルヲ以テ勉メテ事實ヲ掲載スヘキモノトス

一賦課セシモノノ部ニハ月長役場ノ原簿ニ據リ現ニ各納期毎ニ賦課セシ反別地價地租人員ヲ掲載スヘシ

一納期迄ニ収納セシモノト公賣處分指示后収納セルモノ及公賣處分セシモノトノ區分ヲ明カニスルハ本報告調整ノ主眼ナリ故ニ精確查數シテ誤脱ナキヲ要ス

◎第百三十四号(明治十八年六月廿六日)

地方税金等上納ニ際シ五十錢未納ノ金員取纏メ爲替方へ振込候節ハ前後常衝ニ於テ証明候條別紙縦形ニ做イ證書正副兩通事務科へ差出証明ヲ得テ現金振込可申此旨相違候事

局長 姓 名 印

(別紙)

記

一金何百何拾圓

地方中何々税

外金何十何錢

手数料

内何程寄過又ハ外何程寄不足

△或ハ但何村何ノ誰外何十何名五十錢未滿納ニテ手数料出途無之

内

金何百何十圓

手数料取立候分

金何十何圓

何村何ノ誰外何十何名五十錢未滿納ニテ
手数料出途無之分

右振込候也

能美郡(何町)村戸長 何ノ誰

能美郡役所爲替方

●乾百三十五号(明治十八年六月廿九日)

明治十八年度本郡聯合町村費徵収方本年廣六十三号ヲ以テ廣告候ニ付テハ夫々徵収期限

ノ通取納入可取斗賦課表別紙離形ニ照準取調毎徵収期月十日限リ可届出此旨相違候事
 但前半年ニ當ル地價割戸別割徵収期限既ニ經過候ニ付來ル七月廿日限リ取納ノ納入
 可致義ト心得ヘシ

年号何年何月一日現在地價割賦課表

| 町村名 | 地 | 價 | 賦課金員 | 密 △不足 |
|-----|------------------|--------------|--------------|----------|
| 何町 | 何万何千何百何十何圓何十何錢何厘 | 何圓何十何錢何厘 | | |
| 何村 | 、、、、、、、、、、、、 | 、、、、、、、、、、、、 | 、、、、、、、、、、、、 | △、、、、、、 |
| 、 | 、、、、、、、、、、、、 | 、、、、、、、、、、、、 | 、、、、、、、、、、、、 | △、、、、、、 |
| 、 | 、、、、、、、、、、、、 | 、、、、、、、、、、、、 | 、、、、、、、、、、、、 | △、、、、、、 |
| 、 | 、、、、、、、、、、、、 | 、、、、、、、、、、、、 | 、、、、、、、、、、、、 | △、、、、、、 |

通計

右ノ通相違無之候也

月 日
郡長宛

能美郡何町村

戸長 何ノ 惟印

年号何年何月一日現在戸別割賦課調表

| 何村 | 何町 | 何戸 | 何戸 | 何戸 | 何戸 | 何戸 | 何戸 | 類分 | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|------------------|------------------|
| | | | | | | | | 町村名 | 戸割賦課今上第一項ニ該當スルモノ |
| | | | | | | | | 戸割賦課今上第二項ニ該當スルモノ | 戸割賦課今上第三項ニ該當スルモノ |
| | | | | | | | | 戸割賦課今上第四項ニ該當スルモノ | 戸割賦課今上第五項ニ該當スルモノ |
| | | | | | | | | 戸割賦課今上第六項ニ該當スルモノ | 合計 |

地十

通計

右ノ通相違無之候也

月 日
郡長宛

何郡區何町村何ヶ町村

戸長 姓 名 印

年号何年何月何日國稅納額及賦課金額調表

| 營業目 | 納 税 額 | 賦課金額 | 居住所 | 姓 名 | 通計 | | |
|-----|-------|------|-----|-----|--------------------|-------|------|
| | | | | | 何十何圓何十何錢何厘何圓何十何錢何厘 | 何町何番地 | 何ノ 某 |
| 鏡 山 | | | | | | | |

地十一

| 何々 | 何々 | 賣藥 | 二人乘人力車 | 渡海船 | 煙草 | 醫藥 | 醬油製造 | 酒造石 |
|----|----|----|--------|-----|----|----|------|-----|
| 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 |
| 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 |
| 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 |
| 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 |
| 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 |
| 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 |
| 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 |
| 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 |
| 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 |

| 年号何年何月地方稅營業稅納額及賦課金額調表 | | | | 通計 |
|-----------------------|--------|--------|-------|-----------|
| 工業目 | 納稅額 | 賦課金額 | 居住所 | |
| 穀類 | 何圓何十何錢 | 何十何圓何厘 | 何町何番地 | 右ノ通相違無之候也 |
| 生糸 | 、 | 、 | 、 | |
| 綿 | 、 | 、 | 、 | |
| | 、 | 、 | 、 | |
| | | | 姓名 | |

年号日
郡長宛

能美郡何所村外何十ヶ町村
戸長 何ノ誰印

| 絹 | 木綿 | 呉服 | 古着 | 莫座 | 材木 | 荒物 | 小間物 | 金貸社 |
|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 |
| 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 |
| 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 |
| 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 |

地十四

| 大工 | 左官 | 鍛治 | 指物 | 建物 | 何々 | 通計 |
|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 |
| 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 |
| 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 |
| 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 | 、 、 、 |

右ノ通相違無之候也

能美郡何町村外何々町村

地十五

月 日

郡長宛

戸長 姓 名 印

● 第四百四十号(明治十八年七月七日)

營業稅雜稅課目中廢業ノ半額ハ稅ヲ課スヘキ成規ニ有之就テハ該商業稅ニシテ人別賦課ノ等差未定中廢業シ他ヘ移轉等スル者ハ該戸長役場所轄内身元儲ナル者ヲ代理ニ立追テ確定額ヲ上納スルモ敢テ不苦ト雖モ若シ其代理者無之場合ニ於テハ縣會決議額ヲ以テ賦課徵收スヘキ義ト相心得自今右ニ該當スル者有之節ハ其趣旨ニヨリ稅金徵收致スヘシ此旨相違候事

● 第四百八十四号(明治十八年九月九日)

地方稅ニ關スル營業ノ内訓筆所及ヒ代筆營業ノ如キハ從來商業ノ部分トシ課稅候處右業體ハ職工ノ資格ヲ有スル者ニ付十八年度ヨリ工業ノ部分ニ編入課稅候條爾來該營業ヲ爲サントスル者ハ工業ノ資格ヲ以テ出願スヘキ様相達スヘシ此旨相違候事

區町村費中地價割制限ノ義ニ付各聯合町村會ニ於テ地價割ヲ用ヒス惣テ戸別割ニ賦課セ

シムヘク様可取旨及内違候得共右聯合町村會ニ於テ地價割ヲ用ヒ候ヒ差支無之向ハ適宜處并可致此旨及内違候也

明治十八年十一月廿五日

村等戸長

石川縣熊野郡長杉村寛正

服

公賣ノ義ニ付客月四日付示達ニ及置候義ハ治安裁判所ニ於テ判解ニ係リ抵當品賣却濟方申立ニ仍リ公賣ノ分ヲ指シタル義ニシテ前談身代限りハ従前ノ通り可取扱筋ニ候條爲念此旨及内違候也

明治十八年十二月十一日

石川縣熊野郡書記富田録太郎

戸長

旅

賣藥行商人無印紙ノ藥品ヲ以テ預ケ賣又ハ入ノ藥ト唱ヘ販賣スル者有之趣右ハ印紙貼用ノ者ニ比シ幾分ノ廉價ナルヲ以テ購求致候者モ可有之候得共無印紙賣藥ハ犯則品ニ付時宜ニヨリ證憑取調之爲メ其需用者ヲモ本縣廳等へ出頭ヒシムル義モ可有之候該犯則品ヲ

購求又ハ預リ温等ノ義無之味津意致スヘシ且目今右印紙賣藥購求又ハ預リ居候者有之候
ハ、此際其年月方敷及ヒ製造人氏名又ハ番号記載ノ上届出スヘシ
右ハ其筋調前ノ概キ有之ニ付此旨及訓示候也

明治十八年十二月廿五日

石川縣能美郡長杉村寅正

戸長 殿

◎(明治十九年七月六日)

地方税戸數割ノ義ハ其町村會ニ於テ貧富等差ヲ立テ尙甚敷貧瘠ノ向ハ特別除税ノ決議モ
有之處當則戸數割納期ニ臨ミ尙赤貧不納者不少概有ハ素ヨリ時ニ民産ニ貧富ノ消長ハ免
レ難キ次第ニ候得共他ノ源口ナクシテ斯ク暫時間ニ於テ夥多ノ貧困者テ一時ニ發生スル
義ハ無之等畢竟當初調査ノ不行届モノト認メサルヲ得ス就テハ各戸長ニ於テ常度不納者
人名ヲ取調置キ毎戸ノ貧富ヲ確查シ其氏名書ヲ以テ后日會議ニ付シ相當輕減賦課スルカ
又ハ除税トナシ穩當ノ議決ヲ得精々不納者無之議可取計其筋ヨリ訓示相成候條此旨訓
示候也

◎(訓令第三百八十四号)明治十九年十二月十七日

地方税ニ属スル諸營業者ニシテ税金不納ノ爲メ該業停止ノ者再ヒ營業ヲサントスルモ
該不納税金取添出願可爲致ハ勿論ニ候得共當初公賣處分決行該公賣代金ヲ以テ不納税ノ
全額ヲ徴収セシモノ及ヒ該財産公賣處分ニ付スモ買受堅人無之官沒ニ歸シタルモノト雖
モ再營業ヲ爲サントスルモハ嚴ニ停止セシ營業解停方可爲願出義ト心得ヘシ
右訓令ス

◎(訓令第十一号)明治廿一年一月十一日

客年三月號第四十一号町村會不納處分諸取扱手續第七條ニ左ノ但書ヲ加ヘ縦形別紙ノ通
リ改正ス

但シ營業別ハ其業目(業目トハ白米小賣又ハ古着商賣)等ノ如キヲ云フヲ肩書スヘシ
(別紙)

明治何年度本邦適合町村會第何期地價(又ハ戸別割又ハ營業割)カ 割不納者取調御届

| | | | | | | | |
|------|---|---|---|---|---|---|---|
| 徴収期日 | 事 | 向 | 町 | 村 | 名 | 姓 | 名 |
| 金 | 額 | | | | | | |

| | | | |
|---------|--|--|--|
| 金何圓 | | | |
| 金何十錢 | | | |
| 金、、 | | | |
| 計金何圓何十錢 | | | |

右之通届仲候也

何郡區何ヶ町村

月 日

戸長 姓 名 印

郡長 宛

△本文雛形ニ倣ヒ徴収課目ニヨリ各通ニ認ムヘシ且所轄連合町村費等モ此例ニ準ス

●訓令第廿八号(明治二十年一月廿五日)

本郡連合町村費等上納証從來一定ノ書式ナキカ爲メ之ソカ概要ヲ欠キ取扱上差支不遵候ニ付這回別紙ノ通り上納証様式取極メ候條爾來右ニ據リ調製差出スヘシ

(別紙)

証

第何号

一金何程

明治何年度何ヶ費第何期戸別割

但内納(精算別紙明細表ノ通り)

△地價割營業割モ此例ニヨリ調製スヘシ且密過密不足ヲ生スルモ其旨明記スヘシ
右上納候也

月 日

何郡區何町村何ヶ町村

戸長 姓 名 印

郡長 宛

戸別割明細表

一金何程

明治何年度何ヶ費何期戸別割

△每期其徴収惣額ヲ記載スヘシ

金何程

第何号上納証内納

金何程

外(内)何程寄不足(何程寄過)

- 一金何程 何町(村)何某外何名 公賣代價ヲ以テ内納
- 一金何程 何町(村)何某小何名 公賣處分ノ上乗損
- 右之通りニ候也

肩書前ノ通

月 日 戸長 姓 名 印

△地價割營業割モ此例ニ據リ必ス各通ニ割製スヘシ

◎訓令第百三十六号(明治二十年四月五日)

地方税収納順序ノ義ハ豫テ成規モ有之候處一時便宜ヨリ一村合併ヲ以テ税金ニ徴収シ
 后日ニ至リ傳令書ヲ發布セシ向モ有之哉ニ相問ヘ右ハ徴税旨趣ニ悖リ甚不都合ニ候條萬
 一右様ノ取扱有之候テハ不相濟義ニ付將來嚴ニ改正致スヘク且一人別ノ税金ヲ徴収スル
 ニ際リ算出上寄過不足ノ爲メ徴税令書ニ對シ差違ヒテ生スルモ其儘上納スヘキ等ノ處之
 テ其納税者ニ對シ増減セシ向モ有之義ニ付尙將來一層注意致スヘシ

◎訓令第百廿三号(明治二十二年四月廿八日)

本年四月縣令第七十二号ヲ以テ地方税戸數割賦課法第一條第二項改正相成候條同
 者ニシテ炊テ同ナスル者ハ惣テ戸數割ヲ賦課セサル義ニ付此際取扱上區々ナラサル様配
 意スヘキ旨其筋ニリ照會被候條既ニ届出候課戸數ノ内右様ノ向キ有之候ハ、何分ノ義申
 立ヘシ

◎訓令第二百十号(明治十年七月廿二日)

十九年七月號第百四十五号達地方税不納者處分取扱順序別紙ノ通り追加更正ス且目今町村
 費不納者處分取扱方モ右ニ照準取扱フヘシ

但シ十九年號第四十一号及ヒ該達ニ矛盾スル達ハ總テ廢止ス

第一條左ノ但書ヲ加フ

但町村費不納者申報書ハ己号書式ニ依ルヘシ

第六條割註ヲ左ノ通更正ス

(入札取扱ハ二十年四月
 告第百廿九号ニ依ル)トシ以下翌日ノ二字ヲ消除ス

己号書式

明治何年度本郡連合町村費第何期地價(又ハ戸別割又ハ營業割トカ)割不納者人名等報告

| 徵收期限 | 金額 | 住所 | 姓名 |
|------|------|----|------|
| 月何日限 | 金何圓 | 何町 | 何某 |
| 全日 | 金何十錢 | 何村 | 何十何名 |
| 、 | 、 | 、 | 、 |
| 、 | 、 | 、 | 、 |
| 、 | 、 | 、 | 、 |

右報告候也

月 日

郡長宛

何ヶ町村戸長 姓

名 印

△一營業割ハ其業目(營業税中ハ商業又ハ工業雜種税中ハ料理屋)ナ肩書スヘシ
又ハ飲食店ヲ云フカ加シ

△一水方彫形ニ做ヒ尤モ費日毎各通ニ認ムヘシ

●訓令第二百九十五号(明治二十年十二月十三日)

今般本縣訓令第二百三十一号令達ノ次第モ有之候條爾來左ニ例記スル處ノ各業組合規約有之業目ヲ營ナマントスルモノアルモハ必先該組合へ加盟セシメ該願届書へ其旨明記致サセ尙該組合取締人又ハ頭取人へ之カ証明ヲ爲サシメ該願届書進達致スヘシ
但シ從來營業許可ヲ得未タ加盟セサル向ハ此際加盟爲致其旨届出スヘシ

記

- 一 蠶糸業組合規約
- 一 吳座改良組合規約
- 一 陶器窯元組合規約
- 一 九谷陶器畫工組合規約
- 一 琴山改良組合規約
- 一 茶業能美江沼兩郡組合規約
- 一 瀧漁業組合規約

一 絹織物組合規約

一 九谷陶器商人組合規約

以上

訓令第十号 明治二十一年二月十二日

地方税營業者ノ内帳札所持ノ者税金不納該營業停止ニ係。該帳札取立方從來區々ニ涉リ不都合ニ候條爾來賦課財産取締ノ際所持ノ帳札當衛及警察署取立財産取締申報書ニ附記シ直ニ當衛へ還納スヘシ

訓令第十三号(明治廿一年一月十二日)

明治十九年八月當衛館第百五十三号達地方税等上納證書式ヲ廢シ更ニ客年本縣訓令第六十二号地方税収納順序第十六條但書ニ依リ別様様式相定メ候條爾來右ニ據リ調製スヘシ(別添)

證

一金何程

地方税中地租割

但明治何年度后期分

右納候也

年号月日

郡長宛

戸長姓 名印

證

一金何程

地方税中營業税

但明治何年度后期分

内譯

金何程

商業税

金何程

工業税

右納候也

年号月日

郡長宛

戸長姓 名印

證

一金何程

地方税中雜種税

但明治何年度前
后期分別紙明細書ノ通
右ノ納候也

年号・月日

戸長 姓 名 印

郡長 宛

雜種稅上納明細書

雜種稅

一金何程

内 譯

金何程

料理屋稅

金何程

飲食店稅

金何程

雇人受宿稅

金何程

乘馬稅

金何程

湯屋稅

内

金何程

上等

| | |
|-------|------|
| 金何程 | 下等 |
| 金何程 | 理髮人稅 |
| 但上等トカ | |
| 金何程 | 船稅 |
| 内 | |
| 金何程 | 長二間迄 |
| 金何程 | 長三間迄 |
| 金何程 | 人力車稅 |
| 内 | |
| 金何程 | 二人乘 |
| 金何程 | 一人乘 |
| 金何程 | 荷車稅 |
| 内 | |
| 金何程 | 大七以上 |

| | |
|-----|--------|
| 金何程 | 六六已下 |
| 金何程 | 水車税 |
| 内 | 九尺以上 |
| 金何程 | 九尺未満 |
| 金何程 | 漁業税 |
| 内 | |
| 金何程 | 地浪納 |
| 金何程 | 海湖雜漁 |
| 金何程 | 海湖單獨漁 |
| 金何程 | 河川池沼雜漁 |
| 金何程 | 全單獨漁 |
| 金何程 | 遊漁 |

| | |
|----------|----------|
| 金何程 | 探漁税 |
| 右之通りニ候也 | 何町村外何々町村 |
| 年号月日 | 戸長役場 |
| 一金何程 | 雜種税中月日税 |
| 但明治何年何月分 | |
| 内譯 | 遊藝稼入税 |
| 金何程 | 藝妓税 |
| 但何某分 | |
| 内 | 上等何某外幾名分 |
| 金何程 | 中等何某分 |
| 金何程 | |

| | |
|-------------|----------|
| 金何程 | 下等何某外幾名分 |
| 金何程 | 市場稅 |
| 但下等何某分 | 演劇稅 |
| 金何程 | 但上等何某分 |
| 金何程 | 興行稅 |
| 內 | |
| 金何程 | 上等稅 |
| 金何程 | 中等稅 |
| 金何程 | 下等何某分 |
| 金何程 | 屠畜稅 |
| 但牛何頭馬何頭何某分 | |
| 金何程 | 漁業稅 |
| 但鯨漁又ハ江豚漁何某分 | |

右上網候也

年 号 月 日
郡 長 宛

戸 長 姓 名 印

●内第十六号(明治廿一年四月五日)

明治十九年七月當廳乾第百四十五号ヲ以テ地方稅不納者處分取扱順序實施方相違置候通
 リ爾後不納財產取締証印簿其他共未タ實施セサル向ハ無之等ノ處今回其筋ヨリ照會ノ派
 ニ依レハ未タ實施セル向モ有之謂ニ付右ハ後日ノ証左ヲ缺キ取扱上不都合不勘義ニ候條
 爾來財產取締証印簿調製ハ勿論其他共嚴密ニ實施候様深ク注意スヘシ
 右内通ス

●訓令第二十六号(明治廿一年一月廿一日)

客年十二月訓令第二百九十五号各業組合規約業目中九谷商人組合規約ノ項ヲ删除ス
 ●内第三十三号(明治廿一年六月十四日)

無賃職工者弟子又ハ傳習生ノ類ハ其証明ヲ受ケ木月十五日限り届出スヘク皆本月一日内第三十二
 号ヲ以テ内訓置候ニ付該証明ヲ受テ届出ツルモ其不都合ナキモノハ役場經由ノ証印ヲナ

シ通達スヘシ當歸ニ於テハ其當否ヲ審査シ正當ト見認ムル分ハ捺印ノ上下付ニヘクニ付
本人ヘ下付シ其事業ニ従事スルホハ必ス之ヲ携帶セシムヘシ
右内達ス

●内第四十一号(明治廿一年八月廿四日)

地方稅諸營業中別段ノ規則ニ由リ許可ヲ得タルモノト雖モ地方稅營業稅雜稅賦課規則
ニヨリ創廢ノ都度々々可届出ハ勿論ニ候處從來届出方遲緩ノ向モ往々有之取調上不都合
不抄義ニ付爾來嚴密ニ可届出様致スヘシ且諸興行ノ如キハ別段郡衙ヘ可届出成規モ無之
ヨリ知ラス識テス脱稅ニ係リ候テハ不都合ニ付爾來許可伸縮ノ時々兵長ニ於テ地方稅歲
入取扱順序第六十四條ニヨリ無違失徵稅額等報告スヘシ
右内達ス

●訓令第四十七号(明治廿一年二月十日)

地方稅ヲ納ムヘキ營業者ニシテ他府縣ノ餉札ヲ以テ本縣ニ來リ營業スルモノ納稅領收証
ヲ所持セサルモノハ惣テ本縣地方稅賦課規則ニ據リ徵收スル義ト心得ヘシ
但税金徵收后他府縣等ニ於テ納稅セシ領收証差出シ候者ハ徵收セシ税金ヲ還付ス

●内第五十五号(明治廿一年十二月十四日)

明治廿年大藏省令第一号第二條中別記ノ各項處分方其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條此旨
心得ヘシ
右内達ス

(別紙)

- 一 共有連名簿中ノモノ所有權移轉ニ係ルモノモ大藏省令第二條中所有ノ移轉ニ包含ス
- 一 荒地繼年期及ヒ低價年期ハ同上中荒地免租ノ項ニ包含ス又開墾繼年期ハ同條中開墾ノ
項ニ包含ス

前條ノ場合ニ於テ共有連名簿訂正又ハ地券書換願出サル、モノハ明治廿年大藏省第一号
第拾條ニヨリ處分ス

●訓令第九十号(明治廿一年三月廿四日)

地方稅檢査員ノ提携スル証票ハ豫テ兵長役場ヘ下渡有之租稅檢査員ノ照合印捺ト同様ニ
付本年本縣告示第二十六号ニ依リ一覽シテフモノナルハ右印捺ヲ指示スヘシ
●訓令第百十七号(明治廿一年四月廿八日)

從來酒造家等ニ於テ杜氏ト稱スルモノ他備セリ有ハ曾テ其筋ハ經伺ノ上該釀造ノ雇人ヲ除キ課稅有之候處今般本縣訓令ノ次第有之爾來杜氏ヲ以テ營業トシ又ハ釀造家ノ雇人ナルモ都テ工業稅ヲ課スヘキ義ニ候條右ニ該當スルモノハ此際出願可致様取計フヘシ

●訓令第七十九号(明治廿二年五月五日)

地方稅中第四類工業口指定無之ニヨリ各郡市區々ニ涉リ調査上小都合ヲ願フ候旨其筋照會之派モ有之就テハ自今別紙業目ヲ標準トシ取扱フヘシ

工業四類業目

| 目 | 節 | 目 | 節 |
|------|---|-----|---|
| 左官職 | | 木挽職 | |
| 桶職 | | 綿打全 | |
| 煙草刻全 | | 鉛筆全 | |

| | | |
|------|-------|-----------------------|
| 卷煙草職 | 煙草葉卷職 | |
| 鋸目立全 | 竹細工全 | 箆籠柄杓茶具 竈籠 |
| 石切全 | 柚全 | |
| 蠟刺全 | 屋根葺全 | 瓦葺草葺 |
| 燒瓦全 | 煉瓦全 | |
| 土管燒全 | 板批全 | |
| 提灯全 | 鍛治全 | 刀鍛治 鋸鍛治 釘鍛治 農具鍛治 金具鍛治 |
| 調筆全 | 農具大工全 | 鐵柄 唐裝 |
| 吳座織全 | 疋織全 | |

| | | | | | | | | |
|-------------|-------------|-------------|-----------------------|----------------------------|------------------|-------------|-----------------------|-------------|
| 絞 全 | 造 花 全 | 菓子 全 | 硝 子 全 | 鞍 全 | 木 地 全 | 洗 張 全 | 庭 師 全 | 傘 職 |
| | | | | | | 和服洗濯 | | |
| 笠 番 全 | 湯 皮 全 | 織 物 全 | 象 眼 細 工 全 | 附 木 全 | 度 量 衡 全 | 黒 鍬 全 | 洋 服 洗 濯 工 | 葎 簀 職 |
| | | | | 摺 付 木 和 付 木 | | | | |

| | | | | | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-------------|-------------|----------------------------|----------------------------|---------------------------------|------------------------|-------------|
| 鉄 業 細 工 全 | 磨 研 布 全 | 組 物 全 | 印 肉 全 | 麩 全 | 飛 白 染 器 械 全 | 輓 轆 器 械 全 | 雁 全 | 車 緒 職 |
| | | 組 糸 | | | | | | |
| 晒 全 | 陶 器 齒 工 全 | 珠 數 全 | 硝 師 全 | 獵 具 全 | 鍍 金 全 | 線 綿 打 綿 器 械 全 | 噴 水 器 械 工 | 杖 職 |
| | | | | 魚 漁 具 鳥 獵 具 | | | 龍 吐 水 ポン プ | |

| | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|--------|-------|--------------|-----|
| 製茶全 | 琉璃全 | 油榨全 | 掛火全 | 煙火全 | 飴全 | 入齒細工全 | 莖白全 | 摺白全 |
| | | | | | | | ケン ド ン | |
| 索麵全 | 皮剝全 | 鬚付全 | 紋紙全 | 針金全 | 基斯葉盤目盛 | 給馬全 | 曲物全 | 笠全 |
| | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-----|------|-------|------|----|------|-----|------|-----|
| 蠟燭全 | 井戶堀全 | 吳坐繰取全 | 墨全 | 針全 | 紡績全 | 硯全 | 鑄物師全 | 石鹼職 |
| | | | | | 撚糸挽糸 | | | |
| 石臼全 | 立花全 | 刷毛全 | 即寫盤全 | 櫛全 | コハセ全 | 製糸全 | 花簪全 | 石盤職 |
| | | | | | | | | |

| | | |
|------|------|----|
| 錫細工職 | 算盤職 | |
| 機細工全 | 磁石全 | |
| 柳行季全 | 羽細工全 | |
| 綿操全 | 紙細工全 | |
| 靴全 | 香具全 | 線香 |
| 練絹全 | 藤細工全 | |
| 弓絃全 | 吹子全 | |
| 齒磨粉全 | 紅白粉全 | |
| 鮫付全 | 目錄工全 | |

訓令第百一號(明治廿二年六月十一日)

舊新設場ニ於テ事務接受之際當管理ノ町村費ニシテ未納金有之節ハ大字毎費口ヲ區分シ該未納金仕譯書ヲ製シ其一方ヨリ報告スヘシ

訓令第六十二號(明治廿二年四月十三日)

地方税ノ賦課賦法第四條第七項ニ係リ免稅スヘキモノ有之ハ左ノ事項ヲ調査シ當廳ヘ届出スヘキ義ト心得ヘシ

但シ木郡小松小馬出町外二百七十三ヶ町村聯合町村費賦課條規第三條第七項ニ該當スルモノモ本文ニ遵シ具申スヘシ

- 一 水火風災等災害ノ名稱
- 一 災害ノ年月日
- 一 罹災ノ物戸數
- 一 戸數割ヲ免除スヘキモノ、住所氏名及其人別ノ課税額并ニ納期ノ區分
- 一 罹災後納税ニ耐ヘ難キ實況概略
- 一 翌期ノ免除ヲ乞フトスルルハ當期ノ納額納済ノ有無

一 當期ノ納額未納ニシテ翌期ノ納額免除ヲ乞ハントスル者ハ不納處分ノ額未

●訓令第五十六号(明治二十二年四月五日)

地方税工業賃札捕鳥賃札取扱方左ノ通り心得ヘシ

一 職工助手ノ内使役者ト共ニ他ヘ出稼セントスルモノハ其使役者ノヨリニ出稼賃札ヲ下附
ス其賃札ニハ使役人員幾人ト記入ス

一 標札ニ記載スヘキ使役人員ノ數ハ營業者各自ニ記入セシムヘシ

一 捕鳥ハ遊獵ヲ問ハズ總テ營業稅雜稅取扱心得第五條ニ依リ捕鳥賃札ヲ下附ス

●訓令第三百三十八号(明治二十一年五月三十一日)

今般地方稅歲入規則實施相成候ニ付テハ隨時收入ニ係ル税金徴収ノ兼取扱順序第五條前

段ニ由リ其取扱メテ命シ候條左ノ順序ニ依リ取扱フヘシ

一 隨時收入ニ係ル地方稅徵稅令書ハ各納稅者ニ對シ發スヘキニ付此場合ニ於テ戶長ハ各

納稅者ニ之レヲ示シテ税金ヲ領収シ之レニ對シテ仮領収証書ヲ發シ其徵稅令書并ニ

之レハ接續シタル上納書ヲ種ル

一 前項領収シタル税金ト其預リタル徵稅令書上納書ト共ニ地方税金能美郡出納所ヘ納付

ス

一 戶長ハ前項出納所ヨリ領収テ置シタル徵稅令書ノ摺附ヲ受クルトハ之レヲ記名ノ納稅
者ニ交付シ發付シタル仮領収証ト交換ス

●條第四十一号(明治十九年三月一日)

町村費不納者處分取扱手續分左ノ條ニ因リ取扱フヘシ

此旨相達候事

町村費不納者處分取扱手續

第一條 徵收期日ヲ過シレハ戶長役場ニ於テ其人名住所金額事由取調日數三日以内ニ第

七條雛形ニ因リ届出スヘシ但シ時宜ニ據リ期日經過スルトハ直ニ財産取締方達スル

コアルヘシ

第二條 第一條ニ因リ財産取締方達スヘシコト付到達ノ上ハ直ニ不納者ヘ相達シ其手續ヲ

ナシ品目書并受書取立日數五日以内ニ差出スヘシ

但シ不納者夥多ナルトハ十日以内トス

第三條 地價割ハ其土地ノ賦課シタルナリテ財産ヲ差定メタルモノニ付其土地ヲ公賣ス

ルモノトス

第四條 戸別割ハ財産ニ指定ナルモノニ付土庫家屋ヲ除キ其他ノ財産取締ヲナスモノトス

但家屋ニ屬スルモ(兩戸ヲ)疊積障子板戸等渾テ動移スヘキモノハ取締ヲナスモノトス且營業必要ノ器械時服炊具等民事身代限リノ例ニ倣ヒ差除クヘシ

第五條 營業ハ其物品ニ賦課シタルヲ以テ該營業ヲ停止シ其物品ノ取締ヲナスモノトス

第六條 不納者ニシテ既ニ財産取締ヲ受又ハ公賣揭示中ト雖モ物品ノ拂下ケ以前ニ於テ反省ノ狀ヲ以テ處分取消方申出ル場合ニ於テハ該不納金相添出願スルモノハ詮議ノ上處分取消コフルヘシ

但公賣揭示中處分取消方出願スルモノハ其入費取立ルモノトス

第七條 不納者取調書雛形

明治何年度第何期(地價 戸別)對不納者取調御届

△ハ朱書

| | | | | | |
|---------|-------|-------|-----------|-----|----|
| 徵収期日 | 全 | 全 | 事由 | 町村名 | 姓名 |
| 六郡連合町村費 | 金何十錢 | 單立町村費 | | | |
| 金何圓 | 金、、、 | 金何錢 | | | |
| 金、、、 | 金、、、 | 金、、、 | | | |
| 計金何十圓 | 計金何十錢 | 計金何錢 | 合計金何十圓何十錢 | | |

右之通り届仰候也

何町村、、、

年号 月 日

郡長宛

△本文雛形徵収票目ニ因リ各通ニ認ムヘシ

●敝第百五十三号(明治十九年八月廿四日)

今般丙第七十九号ヲ以テ地方税金收納順序更正方懸達相成候ハ就テハ該達第六條ニ依リ地方稅等上納証別紙書式ノ通り取極メ候條本年度后半期ヨリ右ニ據リ押製致スヘシ此旨相達候事

●乾第百六十六号(明治十九年九月十日)
 地方税ニ關スル諸營業者月末ニ至リ廢止シタル届書面取角時日遷延進達ノ向往々有之爲
 メニ整理上差岡不勘候條爾來月末ニ至リ廢止シタル向ハ遲クモ其翌月五日限リ無違失進
 達方取計フヘシ將ク三月九月十二月ノ月末ニ至リ廢止シタヤ向ハ特ニ注意シ該届書直チ
 ニ進達スヘシ此旨豫テ相達候事
 但シ明治十七年十二月能租百六十七号達ハ廢止ス

◎國稅ノ部目次

- 乾第廿四号 明治十八年 國一丁
- 乾第七十九号 全 全
- 乾第百十号 全 全
- 乾第百四十二号 全 國三丁
- 乾第百四十七号 全 國四丁
- 乾第百四十九号 全 全
- 乾第百九十一号 全 國六丁
- 乾第百九十九号 全 國九丁
- 乾第百十五号 全 國十三丁
- 乾第百十六号 全 國十五丁
- 訓示 明治十九年七月九日 國十六丁
- 訓令第百廿九号 明治十九年 全
- 号外 明治十九年十一月十三日 全
- 乾第十号 明治十九年 國十七丁
- 乾第百二十四号 全 國十八丁

●乾第百六十六号(明治十九年九月十日)
 地方税ニ關スル諸營業者月末ニ至リ廢止シタル届書面取角時日遷延進地ノ向往々有之爲
 マニ整理上差向不勘候條耐來月末ニ至リ廢止シタル向ハ遅クモ其翌月五日限リ無違失進
 違方取計フヘシ將ク三月九月十二月ノ月末ニ至リ廢止シタル向ハ特ニ注意シ該届書直ニ
 ニ送達スヘシ此旨豫テ相達候事
 但シ明治十七年十二月能租百六十七号違ハ廢止ス

○國稅ノ部目次

- 乾第廿四号 明治十八年 國一丁
- 乾第七十九号 全 全
- 乾第百十号 全 全
- 乾第百四十二号 全 國三丁
- 乾第百四十七号 全 國四丁
- 乾第百四十九号 全 全
- 乾第百九十一号 全 國六丁
- 乾第百九十九号 明治十八年 國九丁
- 乾第百二十五号 全 國十三丁
- 乾第百二十六号 全 國十五丁
- 訓示 明治十九年七月九日 國十六丁
- 訓令第百廿九号 明治十九年 全
- 号外 明治十九年十一月十三日 全
- 乾第十号 明治十九年 國十七丁
- 乾第百三十四号 全 國十八丁

- 乾第百七十号 明治十九年 國廿一丁
- 訓令第百八号 明治二十年 國廿三丁
- 訓令第百廿四号 明治廿一年 全
- 告示第百四十九号 明治二十二年 全
- 訓令第百六十六号 明治二十年 國廿七丁
- 訓令第百七十七号 明治二十一年 國四十五丁
- 訓令第九十一号 明治二十二年 國四十六丁
- 訓令第三十五号 全
- 訓令第二百貳号 明治二十年 國四十六丁

郡規類集

國稅之部

● 乾廿四号(明治十八年二月十七日)
 證券証書帳簿へ印紙消印ノ儀該規則第五條ノ通り履行スヘキ處中ニハ記名ノ下ヲ押捺スル印ヲ用キテ他ノ印ヲ以テ印紙消印ナスモノ不遵由右者犯則ニシテ不都合ニ付一層注意ヲ加ヘ各營業者等へ篤ク前諭スヘシ
 右相違候事

● 乾七十九号(明治十八年四月十一日)
 國庫金取扱所ニ於テ印紙消印ノ納稅切符紛失(燒失)等ニ罹ルルハ發者証印セシ切符ハ取消トシ更ニ同一ノ切符ヲ製シ其裏面へ何年何月何日紛失(燒失)ニ付再製ト記載捺印シ國庫金取扱所ニ向テ再ヒ証印ヲ受テ候様其筋ヨリ通達有之候條此旨相違候事
 但當衙「リ付與セシ甲乙納稅切符本文ノ場合ニ於テハ其事由ヲ詳記シ再製方申出ツヘシ

● 乾百十号(明治十八年五月廿六日)

- 乾第百七十号 明治十九年 國廿三丁
- 訓令第百八号 明治二十年 國廿三丁
- 訓令第百廿四号 明治廿二年 全
- 告示第百四十九号 明治三十三年 全
- 訓令第百六十六号 明治三十年 國廿七丁
- 訓令第百七十七号 明治二十一年 國四十五丁
- 訓令第九十二号 明治二十二年 國四十六丁
- 訓令第三十五号 全
- 訓令第三百八号 明治二十年 國四十六丁

郡規類集

國稅之部

● 乾廿四号(明治十八年二月十七日)
 證券証書帳簿へ印紙消印ノ儀該規則第五條ノ通り履行スヘキ處中ニハ記名ノ下ヲ押捺スル印ヲ用サス他ノ印ヲ以テ印紙消印ナスモノ不謬由右者犯則ニテ不都合ニ付一層注意ヲ加ヘ各營業者等へ篤ク前諭スヘシ

● 乾七十九号(明治十八年四月十一日)
 國庫金取扱所ニ於テ贖印濟ノ納稅切符紛失(燒失)等ニ罹ルルハ裁者証印セシ切符ハ取消トシ更ニ同一ノ切符ヲ製シ其裏面へ何年何月何日紛失(燒失)ニ付再製ト記載捺印シ國庫金取扱所ニ向テ再ヒ証印ヲ受テ候儀其所ヨリ通達有之候條此旨相達候事

但當衙ヨリ付與セシ甲乙納稅切符本文ノ場合ニ於テハ其事由ヲ詳記シ再製方申出ツ

● 乾百十号(明治十八年五月廿六日)

國庫金支拂ニ對スル領收証書及上納証書ノ備其筋照會ノ趣有之候條別紙細則ニ準據可取
扱此旨相違候事

(別紙)

証書調理方細則

一領收証書ハ總テ正當受取人ノ証書ヲ要ス

但課掛社行名若シシハ惣代名等ヲ以テスルヲ得スモシホハ事故アリ代人ヲ以テス
ルハ代理ノ事由ヲ具記スヘシ

一証書中金員其外ノ塗抹切取等ヲ禁スモシ誤脱等アルハ朱字ヲ以テ更正シ該處ニ必ス

正當領収ノ証印ヲ押捺セシムルモノトス

一旅費証書ハ御用柄發着經過ノ各地及ヒ里程等詳記スルハ勿論巡回中此地ヨリ彼地ヘ移
ル並ニ旅行相跨ルモノ、如キハ其巡回轉地ノ各日數里程等判然之ヲ區別シ記載スル
モノトス

但御用係ハ準任即チ身分取扱及雇ノ者ハ月俸或ハ日給額ヲ書入ルヘシ

一退官一時賜金証書内譯ニハ其履歷ノ詳記ヲ要ス最履歷書ハ別紙トナシ添付スルモ妨ナ

一物品ハ總テ每品ノ個數斤量代價等ノ詳記ヲ要ス其一個當リテ以テ購入セシモノハ其代
價ヲ記載スルモノトス

一領札代ノ如キ使用ニ依リ費途ノ區別アルモノハ各其領札名ヲ區別詳記スルモノトス

一運搬費ノ如キハ其運搬ノ品目數量里程及ヒ炭薪燭燭ノ如キハ其實目斤量ヲ詳記スルモ
ノトス

一乘兒養育米代及窮民救恤米代等ハ年額或ハ日常額并ニ其給與額前月下米平均相場ヲ記
載スルモノトス

一徴兵醫員旅費ヨハ必ラス其等級ヲ記載スルモノトス

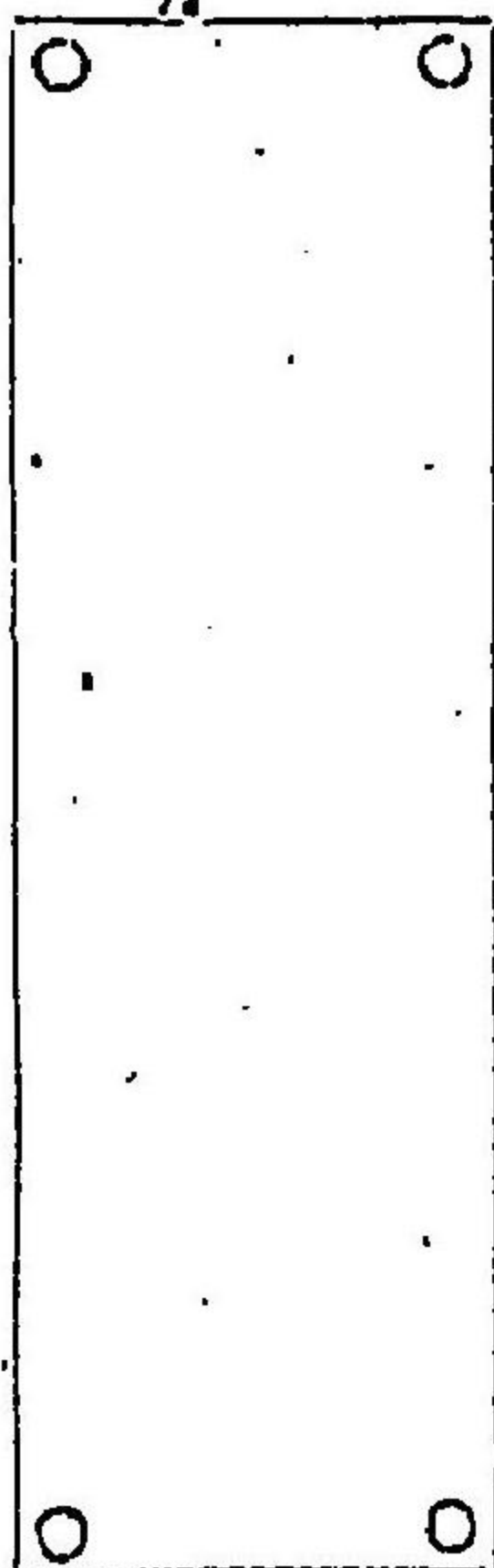
一諸上納及返納証書ハ總テ此細則ニ準據スヘシ

● 第四百四十二号(明治十八年七月十日)

諸事新調并捺印札書換願ノ分爾來左ノ寸法ニ倣ヒ水札調製シ願書ト共ニ差出スヘシ様示
達シ置クヘシ此旨相違候事

豎五寸

幅二寸五分



●乾百四十七号(明治十八年七月十四日)

菓子營業ヲ新ニ開業スル者ハ同稅則第四第九第十二條ニ基キ釐料及ヒ該半期營業稅納
入シ且雇人員ノ有無届添ヘ付シ營業出願スヘキ處願書而已ニテ該届書等添付セサル者往
々有之右ハ調査ノ要點ヲ欠ク而已ナラス收稅上甚ク指圖候條爾來該營業出願ノ者ハ必ス
前願ノ趣旨ニ據リ出願セシムヘシ此旨相違候事

但曩ニ出願ノ者ト雖雇人員ノ有無届出サル尙ハ速ニ届出ヘシ様示達スヘシ

●乾百四十九号(明治十八年七月十五日)

國稅金收納諸帳簿正式ノ外便宜齎覽方等其筋ニ通達有之候條別紙相添ヘ此旨相違候事

(別紙)

一第一号收納元帳合計ノ欄ヘ日々領収ノ金額ヲ記載スル

是ハ一ヶ村數百人ノ納者甲乙其納日ヲ同セサル分ハ預ケ入ニ莅ミ數日分ヲ拾ヒ合算
スルハ頗ル煩雜ナルヲ以テナリ

一全上元帳ヘ一旦納額ヲ記載シ后増減アリテ金額ヲ掲ケタルトハ其下ニ理由ヲ明記スル

ナリ

一第二号時々収入元帳ハ每稅(小科目)別冊ニ調製スル

是ハ諸稅ヲ雜記スルノ式ナレハ預ケ入ニ際シ納稅切符等調製方頗ル混雜スルヲ以テ
ナリ

一前項元帳中ノ内実合等ノ爲メ領收証ノ番号ヲ記入スルモ昔シカラス

第一号元帳及第四号日計簿ヘ合計ヲ付シ國庫金取扱所ヘ預ケ入以前過誤納ヲ發見シ則チ
還付シタルトハ合計ノ次欄ヘ内金何程何ノ事故コト還付ト明記シ其照ヘ改合計ヲ書載ス
ル

一國稅過誤納金下戻帳ナルモノヲ設ケ荷モ還付シタルトハ其金員稅目及人名事由等ヲ明

記スル

是レハ取摺金上納以前還付スルトハ前項ノ通りナレバ已ニ上納シタル后還付アルト

ハ収納簿ニ關係セサルヲ以テナリ

一第四号日計簿ヲ組織スルニ簡易ニシテ一町村ノ収納状況ヲ一日瞭然ナラシメンガ爲メ
別ニ毎町村ノ日計ヲ調製スルコト

但市街地ニシテ町數ノ夥多ナルコト却テ煩雜ニ濫ノハ本條ニ據ラサルモ苦シカラ
ス

●號百九十一号(明治十八年九月廿一日)

來ル十八年度ヨリ酒造營業出願ノ向ハ造石見込高税金相當ノ抵當証別紙雛形ノ如ク差出
サセ而シテ后許可相成ヘキ等ニ付願書ヘ保約証正副(戸長ノ公証ヲ要ス)相添ヘ出願致ス
ヘシ此旨相達候事

但左ノ各取ニ准據シ取扱フヘシ

一引繼營業ナスモノハ本月廿七日限リ造石見込高届出サスヘシ

一造石見込高ニ就キ戸長ニ於テ抵當品納税額ニ適當スルヤ否爲ト調査スヘシ

一家屋抵當ナルハ戸長ニ於テ其價格見込相立添申スヘシ

一他所抵當ナルハ即今賣買實價地價百圓ニ付何程ナルヤ取調書添付スヘシ

一營業人若シ財産不足ヲ生スルハ保証人財産乙字雛形ニ倣ヒ取立ツヘシ

一最初見込高ヨリ増石ヲナス者ハ其都度抵當ヲモ増加致サスヘシ
地所建屋書入并保約証

何國何郡又
何村何番地

何郡又何町村何番地

一合反別

持主 何ノ誰

此地價

何國何郡又
何村何番地

持主 同 人

一建坪

繪圖面添

右ハ酒造稅上納ノ爲メ書面ノ地所建屋第一号ノ抵當トシテ差出置候ニ付テハ若シ納稅期
日ニ至リ税金上納相滞節ハ書面ノ地所建屋御役所ニ於テ直ニ御公賣ノ上御取立相成候得
共各自ニ於テ異議無之候若シ御公賣ノ上税金不足相立候節ハ保証人ニ於テ代納可仕候依
テ爲后日抵當書入及ヒ保証書仍テ加件

年月日

何國郡又
何村何番地

酒造營業人 何 / 誰

何國郡區
何村何番地

保證人 何 / 誰

郡區長宛

此証書ニハ戶長ノ公証ヲ要ス

(公債証書ヲ抵當スルモ苦カラス)

地所建屋書入并ニ保約証

何國郡又
何村何番地

何國郡又
何村何番地

一合反別

持主 何 / 誰 印

此地價

何國郡區
何村何番地

何國郡區
何村何番地

一建坪

何 / 誰

繪圖面添フ

有ハ何國何郡何町村何番地酒造營業人何ノ誰酒造上納ノ爲メ保證人某所有地建屋第一号
ノ抵當トシテ差出置候ニ付テハ納期ニ至リホ人ニ於テ税金上納相滞節ハ書而ノ地所建屋
共御役所ニ於テ直ニ御公賣相成候共決シテ異議無之候若シ御公賣ノ上税金不足相立候節
ハ保證人ニ於テホ人ニ成換リ代納可仕仍テ爲后白抵當書入及保證書仍如件

月 日

何國郡又
何村何番地

酒造營業人 何 / 誰

何國郡又
何村何番地

保證人 何 / 誰

郡區長宛

此証書ニハ戶長公証ヲ要ス

(公債証書ヲ制規ニヨリ指山置クモ苦シカラス)

● 第百九号(明治十八年十月十三日)

醬油小賣營業人及自家用料醬油製造者製造見込并御小賣者醬油買入高等取調可届出旨今
回縣達ノ取有之候條左ノ項目ニヨリ尙期限ヲ誤ラス可届出此旨相達候

醬油卸賣營業人ハ其年醬油買入高見込自家用料醬油ヲ製造スルモノハ製造見込高及家族
雇人員毎年一月一日ヨリ十二月三十一日マテノ分其年一月十五日限リ届出サシムヘシ
但シ新規ニ係ルモノハ其時ニ届出サシムヘシ

醬油卸賣人ハ買ソケル醬油ノ賣捌高及自家用料醬油製造シケルモノハ其使用高等毎年
一月一日ヨリ其年十二月三十一日迄ノ分翌年一月十五日限リ届出サシムヘシ
前項届出ニ依リ左表ヲ製シ此期限ニ從ヒ届出スヘシ

第一号 一醬油卸賣及自家用料製造人員表 毎年調製限リ 翌年一月四日

第二号

一醬油卸賣人醬油(見込)石高調表 全 其年一月廿日限リ 翌年一月廿日限リ

第三号

一自家用料醬油(製造見込)石高調表 全 全

(第一号)

明治何年醬油卸賣及自家用料製造人員表

卸賣人員 小賣人員 自家用料製造人員

右ノ通候也

月 日 何町村戸長 何ノ誰印 郡長宛

第二号

明治何年 從何月 至何月 醬油卸賣人買入(見込)石高調表

卸賣營業人

| | | |
|----|----|----|
| 石高 | 住所 | 氏名 |
|----|----|----|

郡長宛

○(明治十九年七月九日)

本年丙第四十五号達徴稅帳簿式中日計簿ハハ確形ノ通登記可致等ノ處自然納期等ニ際シ納稅者差 郡區役所并片長役場ニ於テ實際帳記上指支アルトハ郡町村ヲ揭ケス人員金員トモ合計ヲ以テ記載シ置シモ若シカラサル旨其筋ヨリ訓前相成候ニ付此旨訓示候也

○訓令第百廿九号(明治十九年十月廿八日)

國庫金任拂ニ係ル正當受取人ノ領收證書宛名ノ義其筋照會ノ趣モ有之旨今總テ水縣會計主務名宛ニ調整差出スヘシ

右訓令ス

号外(明治十九年十一月十三日)

今般整理公債條例公布ノ御趣意ハ第一高利ノ公債ヲ依利トシテ以テ國庫ノ負擔ヲ輕減シ第二各種錯雜ノ公債ヲ統一整理シテ其取扱ヲ替名ヲラシムルニ在リ今此整理公債ヲ募集シテ償還スヘキ現行公債證書ノ内其大部ヲ占ムルモノハ金祿公債證書ニ有之就而者士族ノ内金祿公債證書所有ノ向ハ條例第三十條及大藏省令第九條ノ趣旨ニヨリ可成證書ニテ

交換ヲ望ムニ於テハ償還ノ現金ヲ浪費スルノ憂モ有之間敷全体公債借換ノ時證書ヲ以テ證書ニ交換スルハ其ノ法ノ精神ニシテ開明諸國ノ例此同一ニ有之旨等大藏大臣ヨリ内牒ノ次第モ有之版水縣知事ヨリ内訓相成候前條段御趣意ニ基キ金祿公債證書所有ノ士族ヘ勸諭スヘシ

右内訓ス

○乾十号(明治十九年一月十八日)

自今別紙雜形ニ倣ヒ煙草耕作人(自用ノ爲メ耕作スル者ト煙草營業者ニ賣渡ス爲メ耕作スル者トヲ區別ス)員數及業煙草斤量等取調可届出旨縣達ノ趣有之候條毎年二月五日限リ届出スヘシ此旨相達候事

(別紙)雜形

何郡區業煙草斤量耕作人取調表

| 業煙草斤量 | 町名 | 耕作人名 |
|-------|----|------|
| | | |

| | |
|--------|----|
| 何百斤 | 何村 |
| 何百斤 | 何某 |
| (以下做之) | |
| 計 | |

●乾第百三十四号(明治十九年七月十六日)
地券證印稅徵稅令書請求方區々ニ涉リ調理上不便不少候ニ付自今別紙雛形ニ據リ相認可
指出此旨相違候事

記

一金何風何十錢

何町村

何ノ某
何外名

但印稅仕譯表相添

右地券證印稅上納セシニ付徵稅令書御下渡相成度候也

能美郡何町外何ヶ町村

石川縣能美郡長杉村寬正殿

斤長 何ノ某印

用紙中折紙

地券証印稅仕譯表

某斤長役場

| 地番号 | 地目 | 事山 | 地價金 | 稅率 | 證印稅額 | 地券通數 | 町村名 | 氏名 |
|-----|----|----|-----|----|------|------|-----|----|
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | |

一 地目及ヒ稅率同一ニシテ數筆ヲ同時ニ書換ルモノハ之ヲ集計シテ記入シ地番号ノ欄内ニハ斜線ヲ施シ置クヘシ

一 土地所有者他町村ノモノナルモハ氏名ノ肩出ニ住地ノ町村名ヲ記入スヘシ

一 朱記概例ヲ示シタルモノニツキ地目及事由等異ナル毎ニ區別シテ記入スヘシ

● 乾第百五十三号(明治十九年八月廿四日)

今般丙第七十九号ヲ以テ地方稅金収納順序更正方縣達相成候ニ就テハ該達第六條ニ依リ地方稅等上納証別紙書式ノ通り取極メ候條本年度后半期ヨリ右ニ據リ調製致スヘシ此旨相達候事

● 乾第百六十六号(明治十九年九月十日)

地方稅ニ關スル諸營業者月末ニ至リ廢止シタル届書面免角時日遷延進達ノ向往々有之爲メニ整理上差岡不勘候條爾來月末ニ至リ廢止シタル向ハ進クモ其翌月五日限リ無違失進達方執斗フヘシ將ク三月九月十二月ノ月末ニ至リ廢止シタル向ハ特ニ注意シ該届書直チニ進達スヘシ此旨豫テ相達候事

但シ明治十七年十二月能租百六十七号達ハ廢止ス

● 乾第百七十号(明治十九年九月廿四日)

管藥行商人無印紙ノ藥品預リ置クハ購求スル者往々有之趣ニ付客年十二月其筋馴前之趣ニ依リ則及訓示置候處其後尙無印紙或ハ裝置方不正ノ藥品所持ノ者陸續發顯スル由ニ付其筋ニ於テ不日主務官ヲ派遣シ嚴密調査ヲ遂果シテ犯則ノ賣藥所持ノ者有之候ハ、該藥品ヲ片長役場ニ取締置キ別紙雜形ニ做ヒ無印等賣藥取調書ヲ調製シ可指出旨今回其筋ヨリ訓令ノ次箇有之候條此旨相達候事

無印紙等賣藥員數取調書

| 買入年月日 | 方名員數 | | 調製人住所 | 氏名 |
|-----------|------|------|------------|-----|
| | 無印紙 | 裝置租惡 | | |
| 何年何月何日 買入 | 何個 | 何々 | 何國何郡區何町何番地 | 何ノ誰 |
| 何年何月何日 預 | 何個 | 何々 | 全 | 全人 |
| 何年何月何日 不詳 | 何個 | 何々 | 何 | 何 |
| 買入年月日 不詳 | 何個 | 何々 | 何 | 堂 |

右四方買入人

何郡何町何番地何ノ誰印

米谷 幸次郎

全

沖 五平

全

瀬戸 又七

古河村

伊藤 次郎八

鷺井村

毛利 八郎平

第二部

小松町

織部 次右衛門

全

湯淺 嘉平

全

九洲 清五郎

全

澤守 六平

全

小林 笠坊

第三部

寺井村

井出 又右衛門

全

綿谷 平兵衛

全

鈴木 清七

久常村

宮川 豐次

粟生村

山崎 伊右衛門

第四部

湊村

熊田 源太郎

砂川村

村田 彌右衛門

江ノ島村

新田 甚左衛門

湊村

村 非吉五郎

全村

熊田 八郎平

第五部

河野村

鈴木 源平

西尾村

谷口 忠平

金野村

關戸 又右衛門

西尾村

横山 隆平

金野村

村田 助松

●訓令第百六十六号(明治二十年六月七日)

所得税法實施相成候ニ付テハ納税者就テテノ資料ニ充ツル爲メ別括納税入心得方備考一部
送付ス

(別紙)

所得稅納人心得方備考

一所得稅法第一條ニ一箇年トアルハ年ノ一月ヨリ十二月マテナ云フ凡此一箇年ノ間ニ於テ金三百圓以上ノ所得アル人民ハ勿論米穀其他ノ品物ニテモ其價三百圓以上ニ當ル所得アルモノハ此稅法ニ據テ所得稅ヲ納ムヘキモノナリ其但許戸主トアルハ戶籍方法ニ於テ戸主隱居ナルト云フ戸主ニ非ス一ト住居ノ家ノ長ト云フ義ニシテ隱居コテモ部屋住ニテモ一ト住居ノ家ノ長トナルハ即戸主トナル此戸主ト同居セル家族ニシテ所得アルモノハ別々ニ之ヲ計算セズ戸主ノ所得ト一同ニ合算シテ稅金ヲ取立テ仕法ナル故ニ戸主ニ三百圓以上ノ所得ナキモノハ同居セル家族ノ所得ノ合算シテ三百圓ニ上ルモノハ所得稅ヲ納ムヘキモノナリ若シ或ハ甲地ニ住居スルモノニシテ其父母兄弟ハ乙地ニ居住シテ各別ニ生計ヲ立テ各別ニ所得アルモノハ自分ハ自分ノ所得ト同居セル家族ノ所得トハ合算シテ父母兄弟ハ父母兄弟各自ノ所得ヲ合算スルモノト知ルヘシ

第一條及ヒ所得稅法施行細則
第一條第三條ヲ見合スヘシ

二前ニモ陳ル如ク米穀其他ノ品物ニテモ其價三百圓以上ニ當ル所得アルモノハ所得稅ヲ

所得稅法

納ムヘキモノナルカ故ニ品物ニテ收入シ其價貯藏スルカ又ハ其他ノ爲メ賣上代金ナキモノハ相當ノ價格ヲ以テ其代金ヲ算出スルコト勿論ナリ

稅法第二條細則第三條
ヲ見合スヘシ

三稅法ハ銀行會社共立ノ學校病院及ヒ組合營業等各人ノ集合體ニ收入シタル所得ニ課稅セズ其所得ノ分配ヲ受シル各人ニ向テ課稅スルモノナリ故ニ此分配ヲ受シルモノハ其受ケタル所得ト他ノ自身ノ所得ト合算スヘキコト亦勿論ナリ

四稅法第二條ノ第二項ニ營業ニ非ラサル貸金預ケ金トハ質屋荷爲換業荷受問屋及ヒ金貸營業ニアラサル者ノ貸付金又ハ預ケ金ヲ云フ又官私ヨリ受ケル俸給手當金年金恩給金割賦賞與金トハ官廳學校銀行會社商店工場其他各人ヨリ受ケル所ノモノ即給金賞銀月手當俸定ノ規則又ハ約束ニ依テ受ケル交際費賞勳其他ノ年金

第三條第一項ノ外
恩給金社寺割賦金銀行會社其他商店工場等賞與金其他是等ノ者ト性質ナ同ナル名稱ノ如何所得ヲ指スモノナリ凡ソ第一項ノ所得ハ假令何等ノ元手雜用ヲ費シテ之ヲ得ルモ直ニ其收入スル金高チ以テ所得トナスナリ

稅法第二條第一項
ヲ見合スヘシ

五稅法第二條ノ第二項ニ資產ヨリ生スルモノトハ土地家屋船舶車馬其他ノ動產不動產ヲ人ニ貸付ケテ收入スルモノ、類チ云ヒ營業其他ヨリ生スルモノトハ農業工業商業及ヒ醫

代官其他學術技藝及勞働ヲ以テ收入スル所ノモノナリ 所有田畑ヲ自由ニ耕作
 二費用ニテ收入スルモノハ農業又ハ商業ニシテ所得ニシテ 都テ第二項ニ屬スル所
 畜産ヨリ生スル所得ニ非ス他ハ皆之ニ似テ區別ナクハシ 所得ハ其所得ヲ生スル資産又ハ業務ニ對シ賦課セラル、租稅其他ノ諸掛リ物ヲ始メ其所
 得ヲ収ムルニ必需ノ費用ヲ引去リ殘リタル金高ヲ以テ所得ト爲スナリ 稅法第二條第二
 六左ニ各種ノ事業ニ付租稅其他ノ諸掛リ物ヲ始メ費用ヲ引去ル例ヲ示ス

一所有山林ノ材木ヲ販賣スル如キモノハ材木ノ代價中ヨリ其山林ニ係ル地租其他ノ諸掛
 リ物并ニ手入伐出シ等各種ノ費用ヲ引去ル然レモ材木ノ儲ニテ販賣セス其材木ヲ器具
 ニ製造シテ販賣スル如キモノハ全年收入スル器具ノ代價中ヨリ前記ノ地租其他ノ費用
 小器具製造ニ係ル費用ト併セテ引去ルナリ

一所有ノ田畑ヲ耕ス如キモノハ其收穫物ノ代價中ヨリ其田畑ニ係ル地稅其他ノ諸掛リ物
 種代肥代耕作ニ使用スル牛馬ノ飼料鋤鉞ノ修繕費雇人アレハ其給料食料等各種ノ費用
 ヲ引去ルナリ

一材木及ヒ金物等ヲ買入レ車ノ製造シテ之ノ賣ル如キモノハ車ノ代價中ヨリ營業稅及ヒ
 買入レタル材木金物等ノ代價製造場及ヒ製造用器械ノ修繕費職工雇人アレハ其給料

食料弟子アレハ其食料仕着セ料等各種ノ費用ヲ引去ルナリ

一米ヲ買入レ酒類ヲ製造シテ販賣スル如キモノモ亦前例ニ似テ酒類ノ代價中ヨリ免許稅
 造石及ヒ買入レタル米ノ代價酒造場酒造器械等ノ修繕費社長雇人アレハ其給料食料等
 各種ノ費用ヲ引去ルナリ

一商業者ノ如キハ品物賣上代ノ内ヨリ營業稅品物仕入代運賃口銀店舖及ヒ其商業上必要
 ナル器具ノ修繕費雇人アレハ其給料食料等各種ノ費用ヲ引去ルナリ

一旅館屋ノ如キハ賄料茶代及ヒ酒肴料等營業上收入スル所ノ金高ヲ合計シ其高ノ内ヨリ
 其營業稅及客ニ供シタル米魚類菜類味噌醬油酒肴油燭燭薪炭等ノ代價客室及ヒ必要器
 具ノ修繕料其他旅客ノ待遇ニ係ル各種ノ費用雇人アレハ其給料食料等ヲ引去ルナリ

一醫師ノ如キハ診察料藥價禮金尙金其他營業ニ依テ收入スル所ノモノヲ合計シ其金高中
 ヨリ藥種藥瓶等ノ代價診察所藥材及ヒ施療器械ノ修繕費醫生藥局生等アレハ其給料食
 料其他業上必需ノ費用ヲ引去ルナリ

一所有地ニ麥ヲ植エ其業ヲ以テ賣チ糞ト其糞ヲ賣ル如キモノハ其地ニ係ル地租其他ノ諸
 掛リ物麥ノ肥代手入費及ヒ種紙代業摘賃糞糞馬糞糞田器具ノ修繕費等ヨリ糞ヲ賣ル迄

ノ間ニ於ケル各種必需ノ費用ヲ引去ル然レモ納ニテ之ヲ賣ラス或ハ系ヲ製シテ之ヲ賣
 リ或ハ之ニ加工シ即絹ヲ織テ之ヲ賣ルモノ、如キハ前記費用ノ外製系用器具ノ修繕費
 其他系ヲ製シ之ヲ賣ルマテノ間ニ於ケル各種必需ノ費用又ハ橋織道具修繕費等絹ヲ織
 テ之ヲ賣ル間ニ於ケル各種必需ノ費用ヲ引去ルコト勿論ナリ尤モ釜織製系機械トモ同一
 ノ場所ニ於テ之ヲ爲サズ別々ニ其場所ヲ設ケ之ヲ爲スルハ次ノ例ニ從フヘシ
 一人ニシテ甲乙丙三ヶ所ニ工業場ヲ設ケ甲場ニ於テハ船舶ヲ製造シ乙場ニ於テハ馬車
 ナ製造シ丙場ニ於テハ紡績業ヲ爲スカ加ク又或ハ甲店ニ於テハ金貸業ヲシ乙店ニ於
 テハ織物ヲ販賣シ丙店ニ於テハ家具ヲ販賣スルカ加ク各所別個ノ營業ヲナシ且損益計
 算ヲモ別々ニ立ツルモノハ其箇所毎ニ収入ノ金高中ヨリ營業稅其他ノ費用ヲ引去ルヘ
 シ然レモ若シ一人ニシテ探礦所製鐵所ヲ各地ニ設ケ探礦所ニ於テハ鑛鏡ヲ採取シ鐵材
 ナ造リテ之ヲ製鐵所ニ送り製鐵所ニ於テハ其鐵材ヲ以テ器械ヲ製造シテ之ヲ販賣スル
 等其業相連申シ各所別個ニ計算ヲ立テ難キモノハ其總体ノ収入金高ヨリ各所ノ事業ニ
 係ル税金其他ノ費用ヲ引去ルナリ
 七都テ所得ヲ収入スルノ資料タル土地建物器械雜具等ノ修繕費借料等ハ引去ルコトヲ得

ルト雖モ之ヲ買入レ之ヲ建築スル等ノ費用ハ引去ルヘカラス又土地及ヒ農業 自己ノ所
 農業スルノ所得ニ於テハ其地ニ係ル地租其他ノ諸掛リ物件屋ノ所得ニ於テハ家屋租船
 車ノ所得ニ於テハ船稅車稅酒造ノ所得ニ於テハ免許稅造石稅商工業ノ所得ニ於テハ營
 業稅等其所得ノ種類ニヨリ直接ニ賦課セラル、所ノ國稅地方稅區町村費等ハ引去ルコ
 トヲ得ルト雖モ其所得ニ直接賦課セラレサルモノハ引去ルヘカラス其他ハ皆之レニ倣ヒ
 事業外ニ屬スル負債ノ利子雇人ノ給料食料仕着セ料ノ類一家ノ生活ニ關スル費用負債
 ノ辦償ニ充ツル元金又ハ事業ヲ擴張シ若シシハ之ヲ改良スル爲メ使用スル金員等七都
 テ引去ルヘキモノニ非ス

八稅法第二條第三項ニ前三箇年所得平均高ヲ以テ算出スルトハ營ハ明治二十年ノ所得ハ
 明治十七十八十九ノ三箇年ニ於テ收入シタル所得高ヲ平均シテ計算ヲ立ツル如キヲ云
 フ然レモ其假書ニアル如ク所得收入以來即創業又ハ轉業后三箇年ニ滿クサルモノハ始
 テ收入アリシ月ヨリ毎日ノ所得ヲ平均シテ之ヲ算出シ毎月ノ平均ヲモ得難キモノハ他
 ノ同業若シハ類似業ノ利益ヲ割合セ又ハ自己若シクハ世間一般同一資本ヨリ收得ス
 ル利益ノ歩合又ハ開業以來ノ景況ニヨリ將來ヲ推算スル等相當ノ入額ヲ算出スヘキモ

ノナリ左ヘ二ノ例ヲ示ス 税法第二條第三項細則第二條

ヲ見合スヘシ

一 資本金三万圓ヲ營業シ明治十七年ニハ七分十八年ニハ八分十九年ニハ七分五厘ノ所得シタリ此所得ヲ平均スルハ一箇年七分五厘トナル依テ廿年ハ三万圓ニ七分五厘ヲ乘シ二百五十圓ノ所得アルモノト算出スルナリ

一 前年五月壹万三千圓ノ資本ニテ營業ヲ創メ附來毎月ノ所得平均一分即チ百三十四ツ、ヲ收入シタルハ本年モ同上ノ割合ニテ收入アルモノトナシ共十二ヶ月分即チ千五百六十圓ヲ以テ所得トナスナリ

一 資本金六万圓ニシテ營業スル者前三ケ年間毎年資金ニ多少ノ増減アリテ明治十七年ニハ五万二千圓ヲ以テ營業ヲ爲シ四千三百圓ノ所得ヲ收入シ十八年ニハ四万八千二百圓ニテ三千八百六十圓ノ所得アリ十九年ニハ五万二千六百圓ニシテ四千二百三十四ノ所得アリシ知リ資金高一定セサルモノハ三ケ年ノ資金合計高即チ五万三千八百圓ヲ以テ所得金合計高壹万二千三百九十圓ヲ割り得タル所ノ歩金即チ八歩ヲ目安トシテ之ヲ本年ノ資金高六万圓ニ乘シテ算出シタル金高四千八百圓ヲ以テ本年ノ所得トナスナリ

一 前三箇年間ニ於テハ田地拾五町歩チ有シ年々小作米百二十石ツ、ノ收入アリタルモノ

本年ニ至リ五町歩ヲ減シタルハ残り十町歩ニ對スル前三ケ年間所得ノ平均高即チ八十石ヲ其年ノ所得ト見積ルナリ

一 前三箇年ハ資本金十萬圓ヲ以テ鐵業ヲ爲シ毎年ノ所得五分アリタルモノ本年資金二萬圓ヲ増加スルハ合計十二萬圓ノ資本トナシ之レニ五分ヲ乘シテ算出スヘシ

一 廻漕業ヲ爲スモノ本年船舶ヲ増加シタル如キハ前三箇年又ハ數箇月ニ於テ使用シタル船舶ノ積噸數又ハ積石數ニ對スル收入金ノ割合ニ基キ本年使用スル所ノ新舊總噸數又ハ石數ニ乘シテ算出スヘシ

一 車馬等ヲ以テ運送業ヲ爲スモノ本年車馬ヲ増加スルカ如キモ亦前項回漕業ノ例ニ準スヘシ

一 旅館等ニシテ客間ノ建増ヲ爲シタル如キハ從前ノ客間ノ坪數ヲ以テ前三箇年又ハ一箇月間ニ於ケル收入平均金高ヲ割り其歩合ヲ得テ新舊客間ノ總坪數ニ乘シテ算出スルナリ

一 新クニ製造業ヲ創ムル如キモノハ製造場ノ構造及ヒ器械職工ノ員數等ニ對シ其年製造シ得ル物件ノ見込ヲ立テ他ノ振合等ニ依リ其代價ヲ算出スルナリ

一新クニ農業ヲ創ムル如キハ隣地又ハ他ノ同等ノ土地ニシテ生スル收穫ヲ自安トシ自家ノ
收穫物代價ヲ算出スルナリ

九 稅法第三條ニアル一時ノ所得トハ豫メ必當テモシタルコトナリシテ偶然ニ得ル所ノモノ
即チ死者遺留ノ金銀物品又ハ他人ヨリ贈遺セラル、所ノ金銀物品其ノ他特ニ一時ノ功
勞ニ對スル賞金謝金ノ類ヲ指スヲ以テ診察料藥價代育料著作料翻譯料染筆料其ノ學術
技藝ニ關スル諸般ノ報酬ニ屬スルモノハ假令謝金禮金等ノ名義ヲ以テスルモ第二條第
二項ニ屬スル所得ニシテ一時ノ所得トハ云フヘカラスナルモノト知ルヘシ
稅法第三條第三
項ニ見合スヘシ

十 所得稅ハ毎年九月ト翌年三月トノ二度ニ納ムルモノナリ然レハ本年ノ所得金高一万五千
圓ナレハ税金三百圓ニシテ此三百圓ヲ前半年ニツキ割レハ百五十圓ツ、トナル即チ
前半年分ノ百五十圓ハ本年九月一日ヨリ同三十日迄ニ之ヲ納斤半年分ノ百五十圓ハ明
年三月一日ヨリ同三十一日迄ニ納ムルノ定メナリ
稅法第五條
見合スヘシ

十一 三百圓以上ノ所得アルモノハ前ニ示セシ振合ニ依リ其年ニ於テ所得スヘキ金高ヲ豫
算シ其種類別チテ爲シ届書ヲ調製シテ毎年四月三十日 明治十年ハ七月
三十日マテ 下居住ト云フモノ
留ノ別チ問ハス現ニ其身ノ居住 皆同シ
スル町村ノ戸長ヲ經テ其郡區長ニ

差出スヘキモノナリ之ヲ所得金高届ト云フ 稅法第 條及ヒ附則並ニ
細則第四條ヲ見合スヘシ

十二 前ニ陳ヘタル如ク戸主ハ同居ノ家族ニ屬スル所得ヲ合算シテ税金ヲ納ムルノ義務ア
ルモノナルカ故ニ所得金高ノ届書ニモ彼是ノ所得ヲ合算シテ記載スルハ勿論他府縣他
郡區他府縣ニ於テ收入スル所得ヲモ合算シテ記載スヘキモノト知ルヘシ

十三 北海道沖繩縣等ノ如キ稅法施行地外ニ居住シ施行地内ニ於テ收入スル所得アルモノ
ハ所得アル地ニ納稅管理人ヲ置キ管理人ヨリ其所得金高ヲ届出テシムヘシ又施行地内
ニ居住シ施行地外ヨリ收入スル所得アルモノハ其所得ヲモ合算シ届出ツルコト通常ノ手
續ト同様ナリ 稅法第廿九條其細則
條五條ヲ見合スヘシ

十四 所得金高ノ届書ニ金高及ニ其種類ヲ記載スルハ左ノ例ニ從ヒ順次ニ合記シ或ハ分記
スルモノナリ 細則第四條ヲ
見合スヘシ

一 稅法第二條ノ第一項ニ屬スル所得ハ收入スル場所何ノ地ニアルチ問ハス種類ノ同シ
キモノハ合算シテ一筆ニ記載合シ種類ノ異ナルモノハ一種毎ニ記載合スルモノナリ
記
譬ヘハ金祿公債證書ノ利子海軍公債證書ノ利子整理公債證書ノ利子ノ如キハ所得ノ種
類同シキカ故別々ニ記載セズ集計シテ單ニ公債證書ノ利子ハ合記シ同居ノ家族ニ屬ス

ル公債証券ノ利子ヲ合算スル場合ニ於テモ自身ノ分ト家族ノ分ト合記スルナリ然レ
モ公債証券ノ利子ト株式ノ利益配當金ト又ハ俸給年金ノ加キモノトハ種類ニ異ナル
カ故ニ順次別々ニ記述セサルヘカラス第一公債証券ノ利子第二株式ノ利益配當金第三
俸給第四年金ト分記スルノ類ナリ

一 税法第二條第二項ノ資産ヨリ生スル所得ハ其種類及ヒ之ヲ生スル所ノ郡區トモ同シキ
モノニ限リ之ヲ合記シ種類又ハ郡區ノ異ナルモノハ之ヲ分記スヘシ

營ヘハ同郡内ニ於テ甲村ニ小作人ニ貸付タル田地アリ乙村ニモ同上ノ田地及ヒ畑地ノ
リ又同居ノ家族モ乙丙丁ノ各町ニ同上ノ田地ヲ有シ各自貸地料ノ收入アルカ加キハ單
ニ田地貸付ノ所得ト合記シ此外甲村ニ貸家ノ所得アリ又或ハ乙郡ニモ丙郡ニモ小作人
ニ貸付タル田地ノ所得アル場合ニ於テハ第一甲郡田地貸付ノ所得第二甲郡貸家ノ所得

第三乙郡田地貸付ノ所得第四丙郡田地貸付ノ所得ト別々ニ記述スルノ類

一 税法第二條第二項ノ營業其他ヨリ出スル所得ハ其郡區種類ノ異同ヲ問ハズ都テ之ヲ分
記ス

營ヘハ同郡區内同種類ト雖モ甲町ニ洋服裁縫店アリ乙町ニ其支店アリ又丙町ニ書籍店

丁町ニ筆墨店ノルカ加キハ第一甲町洋服裁縫店ノ所得第二乙町今上支店ノ所得第三丙
町書籍店ノ所得第四丁町筆墨店ノ所得ト各別ニ掲記スルノ類ニシテ其同町同村内ニ於
ケルモ其場所ノ異ナルモノハ勿論同一ノ場所内ト雖モ所得ノ種類分別セルモノハ都テ
分記スルモノナリ

以上ノ例ニヨリ更ニ彼是交渉スルモノヲ左ニ示ス

醫官ニシテ俸給ヲ受ケ公債証券ノ利子株式ノ利益配當金 以上税法第二條 及ヒ貸家賃ヲ收
入シ第二項 傍ラ常ニ病ヲ療シテ診察料及ヒ藥價ヲ受ケ又著譯ヲナシテ其利益ヲ收入スル

以上第二項 カ加キハ第一公債証券ノ利子第二株式ノ利益配當金第三俸給第四貸家ノ所得

第五診察料及ヒ藥價第六著譯ノ所得ト記述ス

株式ノ利益配當金ヲ受クル 第一モノニシテ甲村ニ自ラ耕ヘス田地甲乙丙三箇所 第二項營
業其他

ト貸家甲乙二箇所トチ有シ又乙村ニ貸屋二箇所ト小作人ニ貸付ケタル田地甲乙二箇所
以上第二項 トチ有スルカ加キハ第一株式ノ利益配當金第二田地貸付ノ所得 第三項 集計

三貸家ノ所得 甲村ノ甲乙二箇所ト 第四農業ノ所得 自耕地甲乙 丙三箇所ト記述ス

甲府下甲區ニ居住シテ公債証券ノ利子株式ノ利益配當金ヲ受ケ 以上第一項 金貸營業ヲ爲シ

一 項

第二項營業

貸家二箇所ヲ有シ第二項

乙區ニ於テ西洋小間物ノ卸賣ヲ爲シ第二項營業其他乙郡ニ

田地アリ之ヲ小作セシメ丙郡ノ家庭ト船舶トナ人ニ貸與シ以上第二項更ニ乙縣某郡ニ鉄

工場ヲ設ケ丙縣某郡ニ於テ鐵業營ニ以上第二項又同居ノ長男ハ別ニ公債証書ノ利子及ヒ

抹式ノ利益配當金ヲ收入シ會社ヨリハ俸給及ヒ賞與金ヲ受ケ餘金ヲ貯蓄銀行ニ豫ケテ其

利子ヲ收入シ一頂次男ハ商業學校ノ教員ニシテ俸給ヲ受ケ且公債証書ノ利子ト父ニ預

ケル金ノ利子トヲ收入スル上カ如キハ第一公債証書ノ利子男集計第二預ケ金ノ利子

長男次男第三株式ノ利益配當金父長男第四俸給長男次男第五賞與金長男第六甲區貸家ノ

所得二箇所第七甲區貸家ノ所得第八乙區西洋小間物ノ卸賣ノ所得第九乙郡田地貸付ノ

所得第十丙郡貸家ノ所得第十一丙郡船舶貸付ノ所得第十二乙縣某郡鉄工場ノ所得第十三

丙縣某郡鐵業ノ所得ト記載スヘシ

以上陳ヘタル如ク所得種類ニ依リテハ之ヲ分記スヘント雖モ數個ノ工場商店ヲ置キ一場

ニ於テ經濟及ヒ損益ノ計算ヲナシ又ハ一店ニシテ數種ノ營利事業ヲ爲スカ如キモノニシ

テ各種混同シテ分配シ難キ場合ニ於テハ混同ノ儘ヲ記載スヘシ其一例ヲ示スヘシ左ノ如ク

甲乙丙ノ三箇所工場ヲ設ケ甲場ニ於テハ製造ニ供スル材料ヲ買入レ之ヲ乙場ニ送致シ

乙場ニ於テハ其材料ヲ以テ器械ヲ製造シ丙場ニ於テハ之ヲ販賣シ其實上代金ハ甲場ニ於
テ之ヲ勘定シ各場費用モ都テ甲場ヨリ支辨スル如キモノハ其地何工場外分場何箇所何工
業ノ所得ト合記スヘシ

十五前ノ如ク所得並高ハ順次ニ記載シ税法第二條ノ第二項ニ屬スルモノハ其種類毎ニ引
去リタル費用金高及ヒ其名稱ヲ外登ト爲スコ勿論ナリ 細則第四條ヲ
見合スヘシ

十六居住地外ノ郡區又ハ他府縣ニ於テ收入スル所得アルモノハ其金高及ヒ種類ヲ記載シ
テ所得アル地ヲ管轄セル郡區長ニ届出ツルモノナリ此届ハ郡區内ニ於テ生スル所得金
高ト之レニ係ル所得税金ノ納メ場所トシ郡區長ニ報告スル爲メ差出スモノニシテ之ヲ

稱シテ所得税入届ト云フ此届書ニハ各其郡區内ニ於テ所得スルモノノミヲ記載スヘ
キモノナリ 居住地ノ郡區長ニ差出ス所得金高届ハ之レニ反シ前ニ陳ヘタル如ク
各地ノ所得ヲ悉ク列記スルナリ但細則第六條ヲ見合スヘシ

十七所得税納入届ニ所得ノ金高及ヒ其種類ヲ記載スル方法ハ所得金高届ト異ナルヲナシ
上全

十八税法施行地外ニ居住シテ施行地内ニ所得アル者又ハ施行地内ニ居住スル納税者ニシ
テ内國又ハ外國ニ旅行セントスルカ如キハ外國又ハ施行地外ニ寄留セントスルカハ旅

行地内ノ所得アル郡區ニ於テ納稅管理人ナルモノヲ置キ自己ノ所得稅ニ關ズル諸般ノ代理ヲ爲サシムルナリ其氏名住所ハ豫メ其町村ノ戸長ヲ經テ郡區長ニ届出テ置クハ勿
 論ナリトス尤モ數郡區數府縣ニ亘リテ所得アルモ管理人ハ其郡區其府縣毎ニ置クニ及
 ハス便宜ノ地一箇所ニ於テ差支ナシ 管理人ヲ置カサル郡區内ノ所得ニ係ル納入地届ハ
 シテ之ヲ爲シムル 他郡區他府縣ノ所得ハ一箇所ニ集算シテ所得金高届ヲ爲サシメ税金
 ナモ納メシムルナリ左ニ管理人ヲ置クノ例ヲ示ス 細則第五條ヲ
 見合スヘス

一北海道ニ居住シ東京ニ於テ收入スル所得アルモノハ東京ニ管理人ヲ置キ沖繩縣ニ居住
 シ大坂ニ於テ收入スル所得アルモノハ大坂ニ管理人ヲ置クノ類

一東京ニ居住シ東京ニ於テ收入スル所得アルモノニシテ長崎又ハ朝鮮ニ旅行セントスル
 片ハ東京ニ管理人ヲ置キ大坂ニ居住シ大坂又ハ神戸ニ於テ收入スル所得アルモノニシ
 テ東京又ハ米國ニ旅行セントスル片ハ大坂ニ管理人ヲ置クノ類

一神戸大坂東京又ハ函館ニノ據箇所ニ於テ所得アルモノニシテ英國又ハ函館ニ寄留セン
 トスル片ハ神戸大坂東京ノ内便宜ノ地ニ管理人ヲ置キ又ハ長崎下ノ關若シクハ沖繩縣
 ニ於テ收入スル所得アルモノニシテ支那又ハ沖繩縣ニ旅行セントスル片ハ長崎下ノ關

ノ内便宜ノ地ニ管理人ヲ置クノ類

十九所得稅納期前他ノ郡區役所轄地内ニ轉住スルトキハ先ツ轉住スヘキ場所ヲ記載シ
 現居住町村ノ戸長ヲ經テ其郡區長ニ届出テ又其轉住先キノ郡區長ニモ其場所ヲ記載シ
 居住町村ノ戸長ヲ經テ届出ツルモノナリ

但此届書ニハ雙方トモ通常ノ轉住届ト見分ケ易カラシメソカ爲メ所得稅納人ツル
 者簡明ニ欄間ニ置クヘシ 細則第八條ヲ
 見合スヘシ

二十稅法及ヒ細則中郡區役所郡區長トアルモノハ島廳島司ニ之レヲ商一用スルコト勿論ニ
 シテ此備考中ニ於テ郡區役所郡區長ト云フモノモ亦同様ナリ

十一納稅者郡區長ヨリ等級及ヒ稅金額ヲ達セラレタル片若シ其等級等ノ定メ方ヲ不當ナ
 リト思ヒ府縣知事ニ其事ヲ申出ツル片ハ其達ヲ受取ル日ヨリ起算シ二十日以内ニ府
 縣廳ニ書面到達スヘキ日取リテ以テ差出スヘシ若シ其日限ヲ過キテ申出ツル片ハ受理
 ヒカハルヘク又右ノ申出コトヨリ一旦府縣知事ノ處分ヲ受ケタルモノハ但合不服ナルモ
 再ヒ申出ツルコト得サルカ故ニ成ルヘク速ニ充分ナル理由書ヲ調製シ金高明細書及ヒ
 事實ノ證據ト爲ルヘキモノヲ添付シテ申出ツルコト肝要ナリ 稅法第十九條
 ヲ見合スヘシ

廿二調査委員會又ハ常置委員會ヨリ呼出サレ又ハ自己ノ家宅等ニ就テ所得ニ關スル事柄
ヲ尋問セラル、キハ充分ニ答辨ヲ爲シ且違遡トナルヘキモノハ其閱覽ニ供スルヲ勿論
ナリ尤モ呼出サル、共往返滞留ノ費用ハ自辦ノ事ト知ルヘシ税法第廿一條ヲ
見合スヘシ
廿三税法第廿三條ヲ納期前云々トアルハ納稅者ヨリ其年ノ納稅期限前ニ所得金高十分ノ
五以上ノ減損ヲ生シタル旨郡區長ニ申出テ郡區長ニ於テ其實事ヲ取調本人ノ申出至當
ナリト見認ムルトハ其者ノ既定所得金中ヨリ其減損高ヲ引去リ殘ル所ノ所得金ヲ口安
トシテ更ニ等級及ヒ稅金額ヲ定メ該納期ニ納ムヘキ稅金ヲ減額スルナリ其年ノ
稅金拾圓ヲ納ムヘキモノ其年ノ八月前ニ於テ所得減損シ等級稅金等ヲ更定セラレ稅金
五圓ト爲リタルトハ九月納期ト翌年三月納期トニ於テ二圓五拾錢ツ、ヲ納ム又其年九
月ノ納期后ニ於テ所得減損シ等級納金等更定セラレ其年ノ稅金五圓ト爲リタルトハ前
期ニ於テ既ニ納メ済ナルテ以テ此期ニ於テ別ニ納ムルニ及ハスト雖モ等級稅金等ノ更
定ニヨリ一箇年ノ稅金三圓トナリ又ハ全ク免稅ト爲ルコトアルモ既ニ納メタル五圓ハ其
儘ニ差置キ之ヲ所得者ニ課付スルコト無シ税法第廿三條
ヲ見合スヘシ
廿四所得金高十分ノ五以上ノ減損トハ所得金總額高ノ十分ノ五以上ノ減損ト云フ義ニシテ

體ハ一租ニシテ千圓ノ所得ナレハ五百圓以上減損シ又二租ニシテ第一租ハ一萬圓第
二租ハ二萬圓合計三萬圓ノ所得ナレハ二租ノ損益少差引シテ一萬五千圓以上減損トナ
ラサルモノ、額ナリ若シ此場合ニ運送シ減稅又ハ免稅ヲ申立ツルトキハ充分ニ事實ヲ
具シテ審査ノ便ニ供スルコト肝要ナリ但資本又ハ事業ノ減損ニ止マリテ所得金高ニ及ハ
サルモノハ營ハ田畑ハ水害ニ罹リテ荒地トナリタルモ其ノヨリ生スル其年ノ所得ハ
十分ノ五以上ヲ收入シ或ハ工場備付ノ蒸餾器械五箇ノ内三箇ハ使用ヲ止メタルモ工
業所得ハ十分ノ五以上ノ減損ヲ見サル類ハ減稅免稅ヲ申出ルコトヲ得サルナリ
廿五北海道沖繩縣及ヒ東京府管轄小笠原島群豆七島ニ於テハ官府ヨリ受ケテクハ俸給手當
金年金及ヒ恩給金ノ外ハ當分ノ内所得稅法ヲ施行セラレスト雖モ同地ニ居住スル人民
ニシテ稅法施行地ニ於テ收入スル所得アルモノ又ハ稅法施行地ニ居住スル人民ニシテ
同地ヨリ收入スル所得アルモノハ皆稅法ニ據テ所得稅ヲ納ムヘキコト勿論ナリ税法第廿
合スヘシ九條ヲ見

◎酒令第七十七之明治二十一年九月十一日

新ニ自家用料酒製造届出ル者并ニ地方稅營業中受酒飲食店旅館營業出願ノ節ハ酒稅

則附則第四條ニ依リ調査シ同條各項目ニ抵觸セサル旨添申スヘシ
●訓令第九十一号(明治廿二年五月二十一日)

本年三勅令第三十三号ニ掲げタル其他國稅ニ係ル徵稅令發送付シタルトハ納稅者ニ交付スヘシ
但本支ノ内國札アル向ハ國札料領收証ニ收入官吏ノ捺印ナルヲ見認メタル上之ヲ下付スヘシ

●訓令第三十五号(明治二十二年三月九日)
地租第六期徵收金ハ翌年度ニ(二十一年六月期即チ)於テ收入スルモ前年度ニ繰入シ來ル處二十二年度ヨリハ收入年度ニ繰入スヘシ

●訓令第二百二號(明治二十年七月六日)
所得稅法第六條所得稅法施行細則第五條ノ屆書ニ記載ノ事柄ヲ漏洩スルモノハ所得稅法第二十五條ニ依リ制裁セラルヘキハ勿論ニ付戶長役場ヲ經山スル場合ニ於テハ戶長自ラ屆書ヲ受理シテ封緘ノ上封皮ニ所得屆在中ト朱記シ郡長ニ差出サシムヘキ旨本縣訓令相成候條此旨心得ヘシ

本年訓令第九十三號中出来形明細書ニ關シテ下各ニ通宛ノ割當ヲ誤脱ス

○地券ノ部目次

- 内達 明治十九年八月十八日 地券一丁
- 訓令第四百四十九号 明治二十年 地券二丁
- 内第三号 明治廿一年 全
- 内第拾二号 全 地券五丁
- 内第拾二号 全
- 内第拾五号 全 地券六丁
- 内第拾四号 全
- 訓令第二十七号 全 地券七丁
- 訓令第九号 全 地券九丁
- 訓令第二百三十号 全 地券十丁

則附則第四條ニ依リ調査シ同條各項目ニ抵触セサル旨添申スヘシ

●訓令第九十一号(明治廿二年五月二十一日)

本年(訓令第三十三号ニ掲げタル其他國稅ニ係ル徵稅令發付シタルルハ納稅者ニ交付スヘシ

但本文ノ内銀札ナル向ハ無札料領收証ニ收入官吏ノ捺印ナルヲ見認メタル上之ヲ下付スヘシ

●訓令第三十五号(明治二十二年三月九日)

地租第六期徵收金ハ翌年度ニ(二十一年六月期即チ)於テ收入スルモ前年度ニ繰入シ來ル處二十二年度ヨリハ收入年度ニ繰入スヘシ

●訓令第二百二號(明治二十年七月六日)

所得稅法第六條所得稅法施行細則第五條ノ届書ニ記載ノ事柄ヲ漏洩スルモノハ所得稅法第二十五條ニ依リ制裁セラルヘキハ勿論ニ付戶長役場ヲ經由スル場合ニ於テハ戶長自ラ届書ヲ受理シテ封緘ノ上封皮ニ所得届在中ト朱記シ部長ヘ差出サシムヘキ旨本縣訓令相成候條此旨心得ヘシ

本年訓令第九十三號中出長官明訓令ニ關シテ下各ニ通宛ノ訓令ヲ誤脱ス

○地券ノ部目次

| | | |
|------------|------------|------|
| ●内達 | 明治十九年八月十八日 | 地券一丁 |
| ●訓令第四百四十九号 | 明治二十年 | 地券二丁 |
| ●内第三号 | 明治廿一年 | 全 |
| ●内第拾一号 | | 地券五丁 |
| ●内第拾二号 | | 全 |
| ●内第拾五号 | | 地券六丁 |
| ●内第二拾四号 | | 全 |
| ●訓令第二十七号 | | 地券七丁 |
| ●訓令第百号 | | 地券九丁 |
| ●訓令第二百三十号 | | 地券十丁 |

郡規類集

地券之部

●(明治十九年八月十八日)

土地家帳編製ノ爲ノ各町村ヲシテ帳簿圖面ヲ以テ實地ニ照合シ事實相違ノ有無ヲ申告セ
 シメ收税官吏ヲシテ其當否ヲ検査セシムヘク旨彙ニ内達及ヒタルニ付テハ郡來町村ノ調
 査方ヲ視察セシムルニ往々粗漏ノ向有之ヤニ相聞ヘ右ハ實地検査ニ察シ不調ノ處抽出ス
 ルニ至ラハ再検査ヲ懇請スルハ必然ノ義ニ有之此場合ニ於テハ其検査ヲ中止セサルヘカ
 ラス之ヲ中止スルトハ官民共ニ空シク手取ヲ要スル耳ナラズ幾許ノ費用ヲ徒消スルニア
 リ畢竟加害ヲ致スモノハ今般ノ所行ヲ未ク徹底セサル儀ニハ無之歟抑モ帳簿圖面ト實地
 ト適合スルヲ要スルハ一ハ收税上重複遺漏ヲキナ期シ一人ハ人民土地所有ノ權利ヲ鞏固
 ニスルカ爲メノ目的ニ出ツルモノニシテ而シテ此際ニ於テ専ラ之カ取調ヲ爲サシムルハ
 收租ノ成續ヲシテ紛亂モシメ且人民中府察犯則者ナキヲ期スルノ主眼ニ有之然レモ此
 舉ノ加キハ頻年ニ爲スヘキニ非ラズ又今回ニ於テモ收租以來幾許ノ年月ヲモ不經ニ付務
 メテ民力ヲ愛惜スヘキ時ニ有之ニ付テハ官民ノ不注意ヨリシテ再三ノ勞費ヲ徒消スルカ

加キ不幸ナカラシメシカ爲メ戸長ニ於テ深ク注意一加へ各地主惣代人ニ本旨ヲ徹底セシメ
再調査ノ要無之様示達スヘキ旨其筋内達ノ趣ニヨリ此旨内達候也

◎訓令第百四十九号(明治二十年五月二十日)

公共ノ用ニ供スル一筆地所ニシテ通路無之候地ハ從來不相成處一級ノ令渡無之ニヨリ一
筆ノ地ヲ分裂シ火葬地成墳墓地成等ニ變換シ道路無之分ト雖モ道路新設セサルモ指支無
之者ノ加シ心得候向モ可有之候條以來袋地ニ不相成道路新設可爲願出シ且是迄火葬地成
允許相成候ト雖モ有様ノ向有之候ハ、更ニ出願可爲致旨其筋ヨリ通知ノ次第モ有之候
間存様心得ヘシ

◎内第三号(明治三一年一月十七日)

各利地測量押部查ニ係ル諸費徴収方ハ曾テ何山ノ向モ有之候處地押ノ加キハ最早該調査
終了ノ場合ニ相成候向ハ勿論其他未ク何山ヲザル分此際別紙様式ニ倣ヒ可致經伺様計
フベシ

但収入支出ハ町村費ノ扱方ニ準據シ明記スベシ

右内達ス

(別紙ノ一)
部内何村何ヶ村實地取調ニ關スル諸費豫算別紙ノ通何山候ニ付朱書ノ通認可致度候條御
差支ノ義モ無之候哉此段別括取添ヘ内何候也

年号 月 日
何町 戸長 姓 名 印

(別紙ノ二)
今同當村實地調査略ホ整頓候ニ付テハ該費豫算地主一統協議ノ上別紙ノ通り決定相成候
間御認可有之度此段相伺候也

年号 月 日
何郡 町 地主 総代
何 某 印

(別紙ノ三)
土地取調ニ關スル諸費豫算決定書
一金何百何円
土地取調費

此内譯

金何拾何圓

諸備料

内譯

金何程

地主總代料

金何程

但シ何行一日何程ニシテ何百何十分

金何程

大屋築工人足給料

金何程

但シ丈量人何名日給何程何十何人

金何程

但シ築工何名日給何程何十何人足何名

金何程

口給何程何十何人

金何程

地主總代滞滞口當

金何十何圓

需用費

内譯

金

料紙(其數大畧ヲ記)

金

筆料全上

金

繩木綿竹代等

金何十何圓

諸雜費

合計金

●内第十一号(明治廿一年二月廿四日)

他日變換等惣テ異動地ニ係ル進達書類ハ自今正額ニ引直シ肩ニ修正之ニ字ヲ朱書シ指出シ候様可取計旨其筋ヨリ通知ノ次第モ右之候間右様心得ヘシ
右内達ス

●内第拾二号(明治二十一年二月廿四日)

地券書換并ニ出產死亡等届出犯則者處分方ニ付第一地券書換又ハ出產死亡等ノ届出ヲ怠ル所爲ハ即時犯ナルヤ否第二數通ノ地券書換ヲ怠ル所爲ハ一通毎ニ一罪ヲ構成スヘキヤ否第三地券一筆ノ地ヲ數通ニ分裂シ又ハ數通ノ地ヲ一筆ニ合併スルルハ新クニ下付セラルベキ地券數ニ依リ罪ヲ論スヘキヤ否ノ三點ニ付大審院總會議ニ附セラレ候處第一即時犯ニシテ又繼續犯ヲ以テ論シ第二ハ書換失期ノ一所爲ヲ罰スルモノニシテ地券一通毎ニ一罪ヲ構成スルモノニアラズ第二ハ書換失期ノ一所爲ヲ罰スル以上ハ其書換スベキ地券

ナ敷通ニ分裂スルモ又ハ敷通一筆ニ合併スルモ更ニ犯罪ニ影響ノ及ハサルモノト決議相成尙又右決議中第二番條ノ原由日時地所讓主及管轄廳ノ異同ヲ問ハス一罪ヲ以テ論スルノ旨頗ナルヲ否認題ニ付更ニ同會議ニ附セラレ候處繼ヒ發覺ノ時日場所又ハ替換ノ原由ヲ異ニスルモ唯替換失期ノ一所爲ヲ附シテ各所爲ヲ附スルノ理ナシト決議相成候處其筋ヨリ通牒ノ次第モ右之候間右様心得ヘシ
右内達ス

⑤内第十五号(明治廿一年三月廿九日)
地籍編纂ハ本年一月一日現在ヲ以テ全年七月三十一日迄ニ整頓スヘキ筈ノ處未ク着手セサル町村ノ有之趣相聞ヘ右ハ整頓期日ヲ誤リテハ難成義ニ候間調査方緩慢ニ打過キサル様部内各町村編纂委員ヘ懇篤示諭スヘシ
右内達ス

⑥内第廿四号(明治廿一年五月九日)
明治十八年一月丙寅三号ヲ以テ縣達相成タル地租ニ關スル諸帳簿ノ内戸長役場ニ備置ク處ノ土地臺帳ハ各地所有ヲ明ニシ其沿革ヲ詳カニスル者ニシテ登記ノ証明租稅配賦皆此臺

帳ニ基カサルナシ然ルニ從來存生スル帳簿ハ往々實地ト齟齬スル處アルヲ以テ之ニ據テ臺帳ヲ製スル能ハス又其齟齬シタルヲ以テ一々檢査セハ刑辟ニ處セラルモノ甚ク多ク憫然ニ付曩ニ特議ヲ以テ地租調査ヲ爲シ地所異動ニ係ル者ヲ申告スルコトヲ許シ實地ノ檢査ヲ了リ候ニ付テハ不日異動地ニ對スル新租額達相成ルモ土地臺帳ノ調製ハ其手數不掛而シテ速成ヲ要スル義ニ付此際異動地ヲ除キ毎筆市街宅地ハ地券臺帳及ヒ地價帳ヨリ田畑及ヒ郡村宅地ハ修正一筆限帳當廳檢算濟ニ依リ至急着手シ離形ノ通リ調製シ追テ異動地ノ處分達シ相成タル際異動地ノ分テ調製完結セシムヘク旨其筋ヨリ内訓有之候條右様心得ヘシ
右内訓ス

⑦訓令第二十七号(明治廿一年一月廿四日)
客年十二月訓令第二百九十四号ニ添フ地租納人員區分表離形別紙之通正誤ス
但十九年分ハ同年決算額ニ據リ來ル二月三日限り指出スヘシ
何年度何村外何ヶ村戸長役場

地租納稅人員區分表

拾錢未滿

五十錢未滿
 壹圓未滿
 五圓未滿
 拾圓未滿
 五拾圓未滿
 百圓未滿
 二百圓未滿
 三百圓未滿
 四百圓未滿
 五百圓未滿
 六百圓未滿
 七百圓未滿
 八百圓未滿
 九百圓未滿

千圓未滿
 千圓以上

計

右及御届候也

年月日

郡長宛

片長官 姓 名 印

備考納税區分表欄内人員ヲ記入スルニハ各個納税人ノ納税額ヲ精査シ正確ナル人員
 ヲ區分シテ記入スヘシ決シテ彼此混同セシム可カラス
 納税ノ地戸長役場ニ於テ納税ナラスモノハ之レヲ合計シ在籍戸長役場ニ於テ調査ス
 ルモノトス最モ本郡ノ地租ニ限ル

の訓令第百〇四號(明治卅一年四月六日)

官有原野及荒地等ノ物置積干場或ハ刈草等ノ爲メ借用田圃ノ者有之節該地所産ノ所産
 反歩以下ニシテ且官ニ於テ差支ナキケ所ハ貸下ノ手數ヲ省ク爲メ拂下不許旨通牒有之候
 照其筋ヨリ通牒有之候條此旨心得ンヘシ

◎附録第二十三号(明治廿一年十二月廿七日)
 地口ヲ精緻ニシ地形ヲ詳細ナラシムルハ地租整理ノ根據タルハ言ヲ俟タズ然ルニ地押調
 査ノ際調製セシ字限リ四面ノ義ハ速成ヲ要シタル爲メ追申告或ハ地目違等ニ係ル分ノ口
 而訂正行届アツサルモノ往々有之右ハ將來錯雜ヲ生シ不都合不勘候ニ付來ル一月ヨリ主
 任官ヲ派遣シ各戸長役場土地臺帳毎地口合計額ト廿年決算額ト對照シ差違ナキモノハ該
 臺帳一筆毎ニ字限リ地圖ノ地目ト照合ヲ爲サンノ候條差四無之様示違方其筋ヨリ通牒起
 候條石様心得フヘシ

明治廿二年八月十三日印刷
 全一冊八月十四日出版

著者

高橋 駒太郎

石川縣能美郡小松町
字京町乙卅七番地齊留

發行者

宇都宮 源平

石川縣能美郡小松町
字京町七十六番地

印刷者

郁文社

石川縣能美郡小松町
字京町八十五番地三號

① 附録第二〇三十五号(明治二十一年十二月廿七日)
 地口ノ精致ニシ地形ヲ詳細ヲシムルハ地口整理ノ根據アルハ言ナク然ルニ地口
 查ノ際調製セシ字限リ門面ノ義ハ速成ヲ要シタル爲メ追申告或ハ地口違等ニ係ル分
 而訂正行届アラサルモノ往々有之者ハ將來錯誤ヲ生シ不都合不測候ニ付來ル一月ヨリ主
 任口ヲ派遣シ各戸長往場土地臺帳毎地口合計額ト廿年決算額ト對照シ差違ナキモノハ該
 臺帳一筆毎ニ字限リ地口ノ地口ト照合ヲ爲サシノ候條差無之様示達方其筋ヨリ通牒越
 候條右様心得フヘシ

明治廿二年八月十三日印刷
 全 年八月十四日出版

著者 高橋 駒太郎

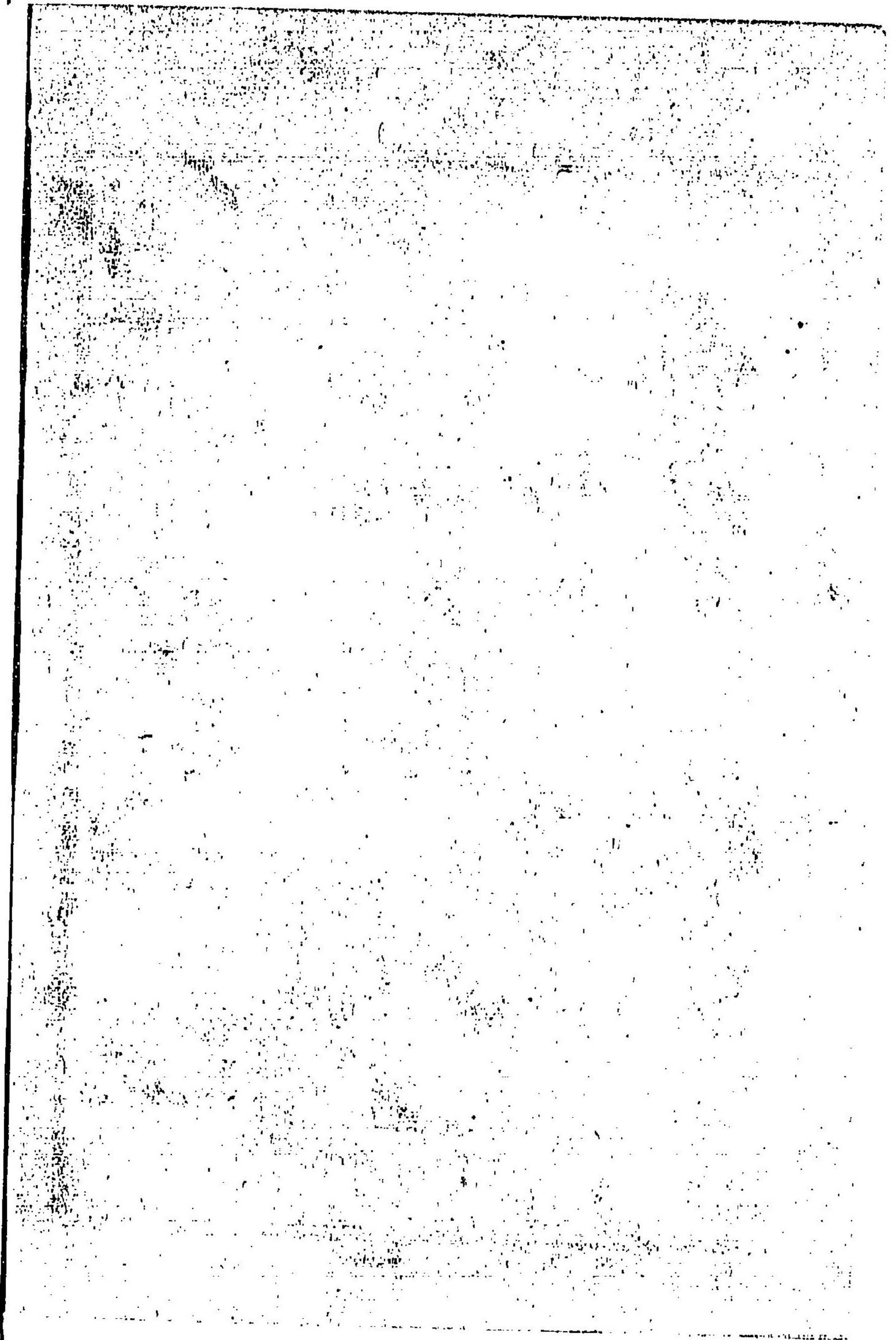
石川縣能美郡小松町
字京町乙卅七番地寄留

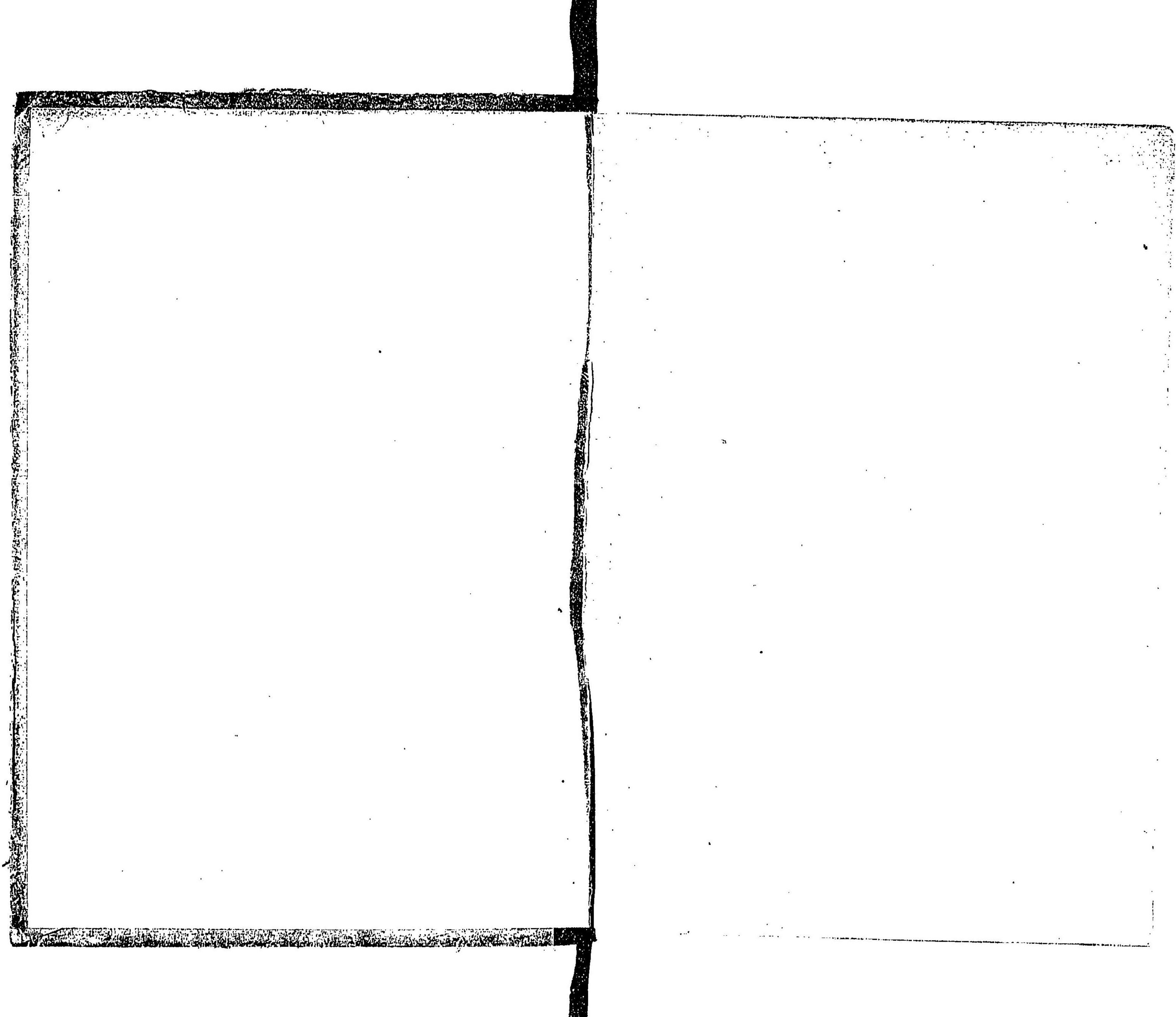
發行者 宇部 富源平

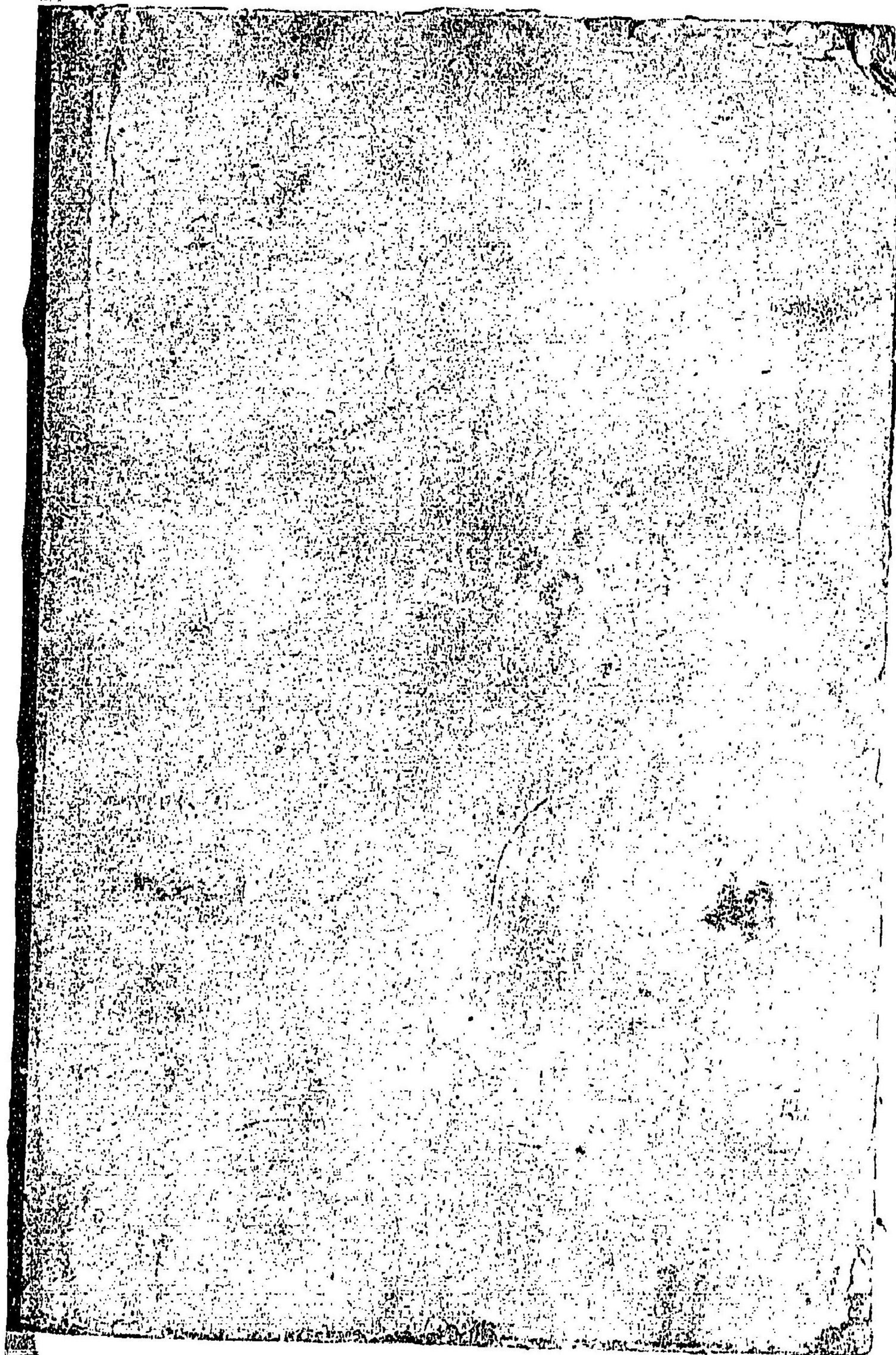
石川縣能美郡小松町
字京町七十六番地

印刷者 郁 文 社

石川縣能美郡小松町
字京町八十番地二號







031169-000-2

CZ-1113-49-N-01

石川県郡規類集

高橋 駒太郎/編

M22

BBD-0040

